

特222
733



0036273-000

特222-733

工場法規取扱手続

宮崎県保安課・〔編〕

宮崎県工場協会

昭和7

AGF

特 222

733

七年十一月

工場法規取扱手續

宮崎縣工場協會

はしがき

工場関係者の利便を法規の主旨徹底を目的として兼に本會に於て發行せる工場関係法規は各關係者に愛好され活用されつゝあり。

然るに同法規は何れも其の主法のみにて之か手續法の規定を缺き聊か不便を憾むを以て更に本冊子を發行するに至れり故に本冊子は其手續法を主とし併せて主法の重なる事項に對する解説及法規施行に關し社會局の通牒等並に附録を御登載し之を工場法規取扱手續と題することせり。

工場關係者は兼に發行せる工場關係法規と本冊子と對照され巻頭の手續早見表を活用し法規施行の圓滿と諸手續の万全を期せられむことを。



正誤表

頁行	誤	正	頁行	誤	正
八二	監檢	臨檢	六三七	本ニ項依リ	本項ニ依リ
一一三	工業場ノ氏名	工業主ノ氏名	七五二	候何條分ノ	候條何分ノ
二六一	係ル	依ル	八二一	此段一通牒	此段及通牒
三二一	周旋ヲ	周旋ヲ	一〇〇九	竣工届	竣工届
三七九	檢印アルモノタルヲ	檢印アルモノタルヲ	一〇一五	細則第二條	細則第一條
五七五	工場監檢	工場臨檢	一〇一五	及御居	及御届
五七一〇	工場監檢	工場臨檢	一〇五一	規ニ依リ	規定ニ依リ
五七一二	御留意	御留意			

凡そ工場法規の徹底を期する目的は全く工場をして調和あり統一ある健全なる進展を
實し以て同法の多分に有する社會政策的使命を果す所以なる事を一言附言し終りに法
文字句の誤りや卷頭早見表中手續事項にして尙不備脱漏無きを保し難いか幸に讀者に
於て諒みせられ實際の手引のために役立ち得たらばと望む處である。

昭和七年十一月

宮崎縣工場協會編者

目次

- 一 工場法令施行手續
- 二 工業場取締規則施行手續
- 三 原動機取締規則施行手續
- 四 工業労働者最低年齢法施行細則
- 五 工業労働者最低年齢法取扱ニ關スル通達
- 六 労働者募集取締令施行規則
- 七 労働者募集取締ニ關スル通達
- 八 製糸女工ノ雇傭契約期間ニ關スル通牒
- 九 工場法ノ適用ヲ受クル工場監督ニ關スル通達
- 一〇 酸素アセチレン熔接作業取締ニ關スル通達
- 一一 軍需工業動員法ニ因ル保護工場監督ニ關スル通牒
- 一二 工場ノ災害報告ニ關スル通達

一三	工場法違反事項處理方ニ關スル通牒	六〇
一四	工場法第八條季節ニ依リ繁忙ナル業務並同法第十五條業務上ノ疾病ノ種類告示	六一
一五	工場法上季節ニ依リ繁忙ナル業務ニ關スル通牒	六二
一六	工場法第四條但書許可方針ニ關スル通牒	六三
一七	工場法施行規則第三條輸出絹織物ノ解釋ニ關スル通牒	六四
一八	母性保護ニ關スル通牒	六五
一九	哺育時間ト休憩時間トノ關係ニ關スル通牒	六六
二〇	工場法上ノ休日ノ意義ニ關スル通牒	六七
二一	製糸工場ノ外摺式摺輪ノ車軸ノ柵圍被覆等ニ關スル通牒	六八
二二	臨時職工ノ扶助ニ關スル件通牒	六九
二三	業務上ノ傷病ニ付健康保險ノ給付ヲ爲シタル被保險者ニ關スル件通牒	七〇
二四	工場法施行令第十八條ノ扶助審査ニ關スル解釋	七一

二五	職工負傷疾病月報中職業病ニ關スル通牒	七二
二六	職工ノ職業病報告ニ關スル件通牒	七三
二七	職工ノ貯蓄金管理ニ關スル認可ノ申請ノ場合取扱方ノ件通牒	七四
二八	職工ノ貯蓄金管理ニ關スル件通牒	七五
二九	職工ノ貯蓄金管理ノ利率ニ關スル件通牒	七六
三〇	職工賃金及貯蓄金未拂ニ關スル解釋	七七
三一	職工就業規則ニ關スル通牒	七八
三二	工場法ニ所謂工場ノ意義	七九
三三	工場法規ニ所謂職工ノ意義	八〇

附 錄

一	工業場建設並原動機設置願書式	九五
二	工業場並原動機設置竣工屆書式	一〇〇
三	工場法適用屆書式	一〇二
四	職工扶助規則準則	一〇三
五	工場分類	一〇四

手續早見表

手 續 事 項	適 條 法 規	丁 數
工業場建設許可願(酸素アセチヌ溶接作業場モ含ム)受理シタル場合	工業場取締規則施行手續第三條 保發第三七〇號昭和七、一一、一六通達	一〇 五二
原動機設置許可願ヲ受理シタル場合	原動機取締規則施行手續第一條	一六
工業場建設並原動機設置許可願(工業場取締規則第廿五條ニ準據シ)ヲ受理シタル場合(製材工場ニシテ移動式ノモノモ含ム)	前記手續法ノ各條ニ付取捨併記 但以上宮崎都城市出願ノ場合ハ市街地建築場法施行細則第四條參照	一六〇
工業場建設落成届ヲ受理シタル場合	工業場取締規則施行手續第四條 發勞第一四號昭和四、一二、二六通牒	一〇 六八
原動機設置竣工届ヲ受理シタル場合	原動機取締規則施行手續第五條第六條	一七
工業場建設並原動機設置竣工届ヲ受理シタル場合	前記手續法ノ各條ニ付併記	一〇 一七〇
警察署備付工業臺帳	工業場取締規則施行手續第二條	一〇

工場法適用届ヲ受理シタル場合	工場法令施行手續第四條 發勞第一四號昭和四、一二、廿六日通牒	六八 二
職工就業規則ヲ受理シタル場合	同上手續第一條 發勞第七一號ノ内大正十五、十二、十三日通牒	八六 一
職工扶助規則ヲ受理シタル場合	同上手續第一條 附錄職工扶助規則準則 發勞第二九號大正十五、十一、廿五通達	一〇三 七一
工業用ニ非ラザル瓦斯機關、石油機關、水車、竝ニ電動機等設置シ又ハ移動式原動機使用届其他休業、廢業又讓受等ノ届ヲ受理シタル場合	原動機取締規則施行手續第二條	一七
工業主移動式製材工場等ノ移轉居ヲ受理シタル場合	同手續第三條	一七
工業主汽罐又ハ蒸罐ノ水壓試驗願ヲ受理シタル場合	同手續第四條	一七
工業主原動機検査證再下附又ハ書替願ヲ受理シタル場合	同手續第七條	一八
取締上原動機ノ定期検査ノ場合	同手續第八條、九條	一八

工業主原動機ノ修理届受理ノ場合	同手續第十條	一八
事業主原動機管理人又ハ取扱主任選任届受理ノ場合	同手續第十一條	一九
工業主原動機又附属設備ノ災害若ハ死傷者發生届受理ノ場合	同手續第十一條	一九
取締上原動機取扱主任ノ改任ヲ命スル要アリト認メタル場合	同手續第十二條	一九
取締上原動機設置許可ノ取消命令ヲ發スルノ要アリト認メタル場合	同手續第十二條	一九
取締上警察官原動機設置又ハ使用ノ場所臨檢	同手續第十三條	一九
警察署備付原動機台帳	同手續第十四條	一九
工業主工場法適用工場廢止又ハ休業届受理ノ場合	工場法令施行手續第五條	二
工業主職工死傷報告受理ノ場合	同手續第三條 告示第三七九號大正五、一〇、一二 業務上ノ疾病ノ種類 保收第一、三三號昭和五、二、廿八通達 勞發第二一四號昭和四、七、二四通牒	六一 六一 七六〇 七七

工業主工場災害事項報告受理ノ場合	同手續第三條	五八
工業主工業物ノ設計變更、増設改造移轉許可願受理ノ場合	工業場取締規則施行手續第三條	一〇
取締上工業場建設許可取消處分ノ要アリト認メタル場合	同手續第七條	一一
取締上工業場ノ危険ヲ生シ又ハ衛生風紀、其他公安ヲ害スル虞レアリト認ムル時一部又ハ全部ノ使用ヲ禁止シ或ハ豫防、除害ノ爲メ必要措置ヲ命ズル要アル場合	同手續第七條	一一
工業主其ノ工場ニ於ケル就業規則又ハ其他ノ制裁規定ニ依ル職工解雇届受理ノ場合(工場法施行細則第二八條)	遲滯ナク事實ヲ調査進達ヲ要ス	〇
常時職工五十名以上ヲ使用スル工業主ノ職工移動月報受理ノ場合	同手續第六條	一一
工業主毎年未現在使用従業員出身府縣別調表届受理ノ場合	同手續第五條	一〇

取締警察官吏ノ工業場臨檢

取締上工業主ニ對シ疾病職工又ハ産婦ノ就業制限又ハ禁止ヲ命ズル要アリト認ムル場合

工業主保護職工夜間就業許可申請受理ノ場合

工業主保護職工ニ休憩時間ヲ與ヘザルコトノ許可申請受理ノ場合

工業主保護職工夏季就業時間延長許可申請受理ノ場合

工業主避クベカラザル事由ニ因リ保護職工就業時間延長又ハ休日廢止許可申請受理ノ場合

工業主季節ニ依ル繁忙ナル事業ニ付保護職工就業時間延長許可申請受理ノ場合

同手續第八條
社發第一部第廿五號至十四、十、十四通牒
保發第一四一號昭和六、五、十三通達

工場法令施行手續第二條
發勞第一一〇號至十五、十、廿一通牒
同第一五號昭和四、二、廿六通牒

工場法令施行手續第七條
發勞第二二號昭和四、一〇、一二通牒

同手續第七條

同手續第七條

同手續第七條

發勞第一四號昭和四、二、二六通牒

同手續第七條

發勞第一一號昭和六、二、二七通牒
告示第三七九號大正五、一〇、一一
季節ニ依リ繁忙ナル業務

發勞第一一號ノ内昭和六、三、二八通牒

一七一
四八

六七
六七

六三
六五

三

三

三

六八

六三
六三

六一

六四

工業主變質ノ虞レアル原料又ハ材料ノ損失ヲ防クタメ保護職工就業時間ヲ延長又ハ休日ヲ廢スルコトノ届ヲ受理シタル場合

工業主監時必要アル場合保護職工ノ就業時間ヲ二時間以内延長届ヲ受理シタル場合

工場管理人選任認可申請又選任届ヲ受理シタル場合

工場管理人タル資格ヲ失ヒ又ハ取締上不適當ト認メタル場合ノ具申

工業主ヨリ職工扶助及葬祭料又ハ職工ノ歸郷旅費支出月報ヲ受理シメル場合

工業主ヨリ職工賃金ノ内物質給付届ヲ受理シタル場合

工業主ヨリ職工扶助年表ヲ受理シタル場合

同手續第八條

同手續第八條

同手續第九條

同手續第十條

同手續第十一條

保發第七六號昭和三、一一、三〇通牒

同手續第十一條

同手續第十一條

七二
四

四

四

常時職工十名以上ヲ使用スル工業主 ガ其使用職工健康調査届（毎年四月 二十日迄）受理ノ場合	取纏メテ進達スルコト（工場法施行 細則第三二條）	〇
工業主職工ノ負傷又ハ疾病ニ重大ナ ル過失アリタルコトノ認可申請ヲ受 理シタル場合	同手續第十二條 收勞第二〇一號昭和七、一〇、四通牒	七五
工業主職工障害扶助料又ハ遺族扶助 料分割支給ノ許可申請ヲ受理シタル 場合	同手續第十三條	五
工業主職工ノ賃金ノ一部ニ物品給付 方許可申請ヲ受理シタル場合	同手續第十四條	五
工業主職工ニ貯蓄ヲ爲サシムルコト ノ許可申請ヲ受理シタル場合	同手續第十五條	六
工業主職工貯金管理申請ヲ受理ノ場 合	同手續第十六條 工第三八八一號大正九、七、二二通牒 發勞第二〇三號大正一五、九、二二通牒 發勞第六〇號昭和五、一二、二七通牒 收勞第六四號昭和七、三、二四通牒	八一 八三 八四 八五

取締ヒ工業主ニ職工貯金管理ノ取消 又ハ方法變更ヲ命スル等ノ處分ヲ必 要トスル場合	同手續第十七條	七
工業主試ノ職工雇傭期間延長ノ許可 申請受理ノ場合	同手續第十八條	七
工業主工場概要届受理ノ場合	同手續第六條	三
警察署長工場法令違反者處分結果表 報告期日	同手續第十九條	七
警察官工場臨檢度數調報告期日	同手續第廿條	八
工業労働者最底年齢法施行手續		
適用工場以外ノ工業ニ十六歳末滿ノ 者ヲ使用スル者届出様式及期日	工業労働者最底年齢法施行細則第二 條第六條第七條 保發第五〇號大正一五、七、二七通達	二二 二二 二六
同上ノ者ヲ使用スル場合使用者が備 付クベキ其ノ名簿様式及届出並ニ異 動アル時取扱方法	同則第三條 同上通達	二二 二六

同上ノ者業務上死傷又ハ疾病ノ場合 届出要項	同則第四條 同上通達	二二 二六
本法違反事項報告要項	同上通達第三號	二七
警察署長本法實施成績其他視察ノ方 針等及違反件數報告年表	同上通達第五號	二八
労働者募集取締令施行手續		
労働者募集従事許可願ヲ受理シタル 場合願面記載並添付書ノ正否調査	労働者募集取締令第二條、三條、四 條 同上施行規則第十一條	工場關係 法規一六九 三二
同上許可願ニ添付スベキ就業案内又 ハ雇傭契約書案其他文書ニ付	同上施行規則第二條乃至第八條及第 十條 警訓労働者募集ニ關スル件第一號乃 至第六號	二九頁ヨ リ三一頁 三七
右募集許可願ニ對スル許否調査	同上規則第十二條各號 警訓 同上第七號各項	三二 三八
右許可ニ募集従事期間又ハ募集區域 ニ付制限ノ要否	同上規則第十三條 警訓 同上第八號、九號	三三 三八

就業案内、雇傭契約書案、其ノ他文 書ノ變更ヲ届出タル場合	同上規則第九條 警訓 同上第一號乃至第三號	三一 三六
募集従事者募集着手ヲ届出タル場合	同上規則第十六條 警訓 同上第十二號乃至第十四號	三三 三九 四〇
應募者出發届出タル場合	同上規則第十七條、十八條 警訓 同上第十五號乃至第十八號	三三 三四 四〇 四一
募集従事者證返納届出タル場合	同上規則第十五條 警訓 同上第十一號	三三 三九
募集従事證再下付又ハ書替願出タル 場合	警訓 同上第十號	三八
募集主労働者募集年報届出タル場合	警訓 同上第十號	三八
應募者ノ請求ニ依リ又ハ募集主ニ於 テ採用セズ歸郷セシメタル場合ノ措 置	同上規則第十九條	三四

取締上募集従事者ニ對シ募集従事者 證應募者名簿其他書類ノ提示ヲ命ズ ル場合	同規則第十四條	三三
取締上募集従事許可取消又ハ募集ノ 停止處分ヲ爲スノ要アリト認メタル 場合	同規則第二十條 警訓 同上第十九號第二十號	三四 四一 四二
警察署備付募集従事者台帳	警訓 同上第二十一號	四二
月報應募者數調査表	警訓 同上第二十二號	四二
年報勞働者募集取締令違反者調査表	警訓 同上第二十三號	四二

工場法令施行手續

(昭和六年四月二十四日
官廳勅諭令第十號)

第一條 工場法施行令第十九條ノ規定ニ依ル扶助規則又ハ第二十七條ノ四ノ規定ニ依ル就
業規則ヲ受理シタルトキハ遲滯ナク之ヲ進達スヘシ

第二條 工場法施行規則第十條ノ規定ニ依リ工業主ニ對シ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルノ
必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ調査シ具申スヘシ

- 一 職工ノ氏名及年齢
- 二 現ニ就業シツ、アル業務
- 三 制限又ハ禁止ヲ必要トスル事由
- 四 醫師ノ意見
- 五 其ノ他參考トナルベキ事項

第三條 工場法施行規則第二十五條ノ規定ニ依ル職工死傷報告又ハ二十六條ノ規定ニ依ル
工場災害事項報告ヲ受理シタルトキハ各其ノ記載例ニ基キ調査ヲ遂ク遲滯ナク之ヲ進達
スベシ

第四條 工場法施行細則第一條ノ規定ニ依ル届ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ遅滞
ナク之ヲ進達スベシ

一 届書ハ洩レナク記載シ居ルヤ

二 工場所在地、各稱及工業主ハ相違ナキヤ

三 資本金額ハ相違ナキヤ

四 使用職工中十四歳未満ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル者ヲ使用スルコト
ナキヤ

五 就業時間ハ工場法第三條ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユルコトナキヤ

六 休日及休憩時間ハ工場法第七條ノ規定ニ適合シ居ルヤ

七 工場法施行規則第十二條、第十二條ノ二及十三條ノ規定ニ依ル周知方法ハ確實ナリヤ

第五條 工場法施行細則第二條ノ規定ニ依ル届ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ遅滞
ナク之ヲ進達スベシ

一 届書記載ノ事由ハ事實ナリヤ

二 解雇手當其ノ他ノ支給ノ有無及其ノ支給方法並ニ支給額(最高最低及不均額ニ
區分シ記載スルコト)

三 其ノ他参考トナルヘキ事項

第六條 工場法施行細則第三條ノ規定ニ依ル届ハ之ヲ取纏メ十月末日迄ニ進達スベシ

第七條 工場法施行細則第六條乃至第九條及第十二條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルト

キハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遅滞ナク之ヲ進達スベシ

一 申請ノ事由ハ事實ニ相違ナキヤ

二 期間及延長セムトスル就業時間ハ長キニ過クルコトナキヤ

三 休憩時間及其ノ配置ハ適當ナリヤ

四 其ノ他許否上参考トナルベキ事項

第八條 工場法施行細則第十條第十一條ノ規定ニ依ル届ヲ受理シタルトキハ其ノ記載事項
ニ付調査ヲ遂ク遅滞ナク之ヲ進達スベシ

第九條 工場法施行細則第十三條ノ規定ニ依ル工場管理人選任ノ申請書又ハ選任届ヲ受理
シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遅滞ナク之ヲ進達スベシ

一 工場法施行細則第十四條各號ノニ該當ノ有無

二 委任契約及履歴書ノ確否

三 其ノ他許否上参考トナルベキ事項

第十條 工場管理人ニシテ工場法施行細則第十四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ遲滞ナク具申スベシ

第十一條 工場法施行細則第十五條第十九條第二項及第二十九條ノ規定ニ依ル届テ受理シタルトキハ遲滞ナク之ヲ進達スベシ

第十二條 工場法施行細則第十六條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ遲滞ナク之ヲ進達スヘシ

- 一 工場ノ名稱及工業主ノ氏名
- 二 職工ノ氏名及年齢

- 三 負傷又ハ發病當時ニ於ケル作業状態
- 四 職工ノ性行及平素ニ於ケル勤怠状況

- 五 職工ニ重大ナル過失ノアリタルコトヲ證明スベキ事實
- 六 從來同様ノ負傷ヲ爲シ又ハ疾病ニ罹リタルコトノ有無
- 七 其ノ他認定上参考トナルベキ事項

第十三條 工場法施行細則第十七條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遲滞ナク之ヲ進達スベシ

- 一 記載事項ハ事實ニ相違ナキヤ
- 二 工業主ハ實際一時ニ支給シ得ザル状態ナリヤ
- 三 分割支給ヲ爲スニ依リ遺族又ハ家族ノ生計ニ不安ヲ來シ若ハ其ノ虞ナキヤ
- 四 其ノ他許否上参考トナルベキ事項

第十四條 工場法施行細則第十九條第一項ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遲滞ナク之ヲ進達スベシ

- 一 工場ノ名稱及所在地
- 二 職工及其ノ他ノ勞働者ノ男女別員數
- 三 申請書記載ノ事由ハ事實ニ相違ナキヤ

- 四 物品ノ價格ハ市價ニ比シ高キニ過グルコトナキヤ
- 五 給付ノ方法ハ適當ナリヤ

- 六 其ノ他許否上参考トナルベキ事項

第十五條 工場法施行細則第二十條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ進達スベシ

- 一 貯蓄金規定ハ工場法施行細則第二十條各號ノ事項ヲ具備シ居ルヤ
- 二 職工ノ男女別員數及其ノ一ケ年間ニ於ケル賃金並ニ貯蓄金ノ總額
- 三 最高最低及平均額ニ依ル職工ノ賃金日額
- 四 賃金中ヨリ控除スル金額ハ多キニ過グルコトナキヤ
- 五 貯蓄ヲ爲スコトニ付テノ職工ノ意圖
- 六 其ノ他ノ許否上參考トナルベキ事項

第十六條 工場法施行細則第二十一條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ進達スベシ

- 一 管理規定ハ工場法施行細則第二十一條各號ノ事項ヲ具備シ居ルヤ
- 二 管理規定ハ工場法施行令第二十三條第二項工場法施行規則第二十條及工場法施行細則第二十五條各號ノ一ニ抵觸スルコトナキヤ
- 三 會社又ハ工場ノ資本金及負債ノ額並ニ經營狀態及一ケ年間ニ於ケル生産額

- 四 貯蓄金取扱主任者ノ氏名及年齢並ニ性行
- 五 保證人ノ住所氏名及年齢職業及資産並ニ負債ノ額及信用ノ程度
- 六 保證人ト會社又ハ工場トノ關係
- 七 管理方法ノ確否
- 八 其ノ他許否上參考トナルベキ事項

第十七條 職工貯蓄金ノ管理ニ關シ工場法施行細則第二十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ調査シ之ヲ具申スベシ

第十八條 工場法施行細則第二十七條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ進達スベシ

- 一 從來ノ試ノ雇傭期間
- 二 申請書記載ノ事由ハ事實ニ相違ナキヤ
- 三 試ノ雇傭ヲ爲ス職工ノ年齢ノ範圍
- 四 其ノ他許否上參考トナルベキ事項

第十九條 警察署長ハ毎年工場法令違反者處分ノ結果ヲ別記様式第一號ニ依リ翌年一月二

十日迄ニ之ヲ報告スベシ
 第二十條 警察署長ハ毎年警察官史ノ工場監檢度數ヲ別記様式第二號ニ依リ翌年一月二十
 日迄ニ之ヲ報告スベシ
 別記様式第一號

工場法令違反者處分結果表 (年分)

月 日報告

警察署長印

業 別	違 反 條 項	違 反 事 項	處 罰 件 數	
			告 發 戒 告 處 罰	處 罰
計				

別記様式第二號

警察官吏工場臨檢度數調 (年分)

月 日報告

警察署長印

業 別	毎月一回臨檢シ タル工場數	毎月二回以上臨 檢シタル工場數	計	一年間ノ延臨檢 度數	臨檢セザリシ工 場數

工業場取締規則施行手續

(昭和六年七月十一日
宮崎縣訓令第十四號)

工業場取締規則施行手續左ノ通定ム
工業場取締規則施行手續

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ工業場取締規則ヲ謂フ

第二條 警察署ニハ別記様式第一號ノ工場臺帳ヲ備ヘ所要事項ヲ登載スベシ

第三條 規則第三條、第四條、第五條ノ規定ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遲滞ナク進達スベシ

一 願書記載ノ事項ハ完備シ居ルヤ

二 規則第六條各號ノ一ニ該當スルコトナキヤ

三 汚物及汚水等ノ處置方法

四 其ノ他許否上參考トナルベキ事項

第四條 規則第七條ノ届ヲ受理シタルトキハ調査ヲ遂ゲ意見ヲ附シ遲滞ナク進達スベシ

第五條 規則第十四條ノ規定ニ依ル届ヲ受理シタルトキハ別記様式第二號ニ依リ一月末日迄ニ報告スベシ

第六條 規則第十五條ノ届ハ之ヲ取纏メ其ノ月二十日迄ニ進達スベシ

第七條 規則第十七條、第十八條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スベシ

第八條 警察官吏及當該官吏ハ毎月工業場ニ臨檢スベシ

様式第一號 (用紙美濃形様式)

工業場名	業名	業種	業場位置	業場名	業場主人氏名	常時使用ノ職工數			
						種別	區分	年	月調
寄留工	通勤工	男	計	年	月調	男	計	年	月調
資本金	及ノ原	個種動	數類機	業名	資本金	男	計	年	月調
男	計	年	月調	男	計	年	月調	男	計

原動機取締規則施行手續

(昭和六年十二月二十二日)
宮崎縣訓令第二十一號

- 第一條 規則第三條ノ規定ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ進達スベシ
- 一 願書(正副二通)ハ其ノ記載事項ヲ完備シ居ルヤ
 - 二 原動機室ト作業室トハ規則第五條ノ規定ニ依リ區劃シ居ルヤ
 - 三 規則第八條各號ノ一ニ該當スルコトナキヤ
 - 四 煙突ノ構造ハ規則第六條第一項各號ノ規定ニ依レルヤ
 - 五 其ノ他許否上參考トナルベキ事項
- 煙突ニシテ規則第六條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ前項各號ノ外左ノ事項ヲ調査スベシ
- 一 事業ノ種別
 - 二 規則第六條各號ヲ斟酌シ又ハ危害豫防ヲ必要トスル事實
 - 三 支障アリト認ムル事實

四 煙突ノ高サ及支線ノ數

五 附近見取圖

六 其ノ他參考トナルベキ事項

第二條 規則第三條但書ノ規定ニ依ル届ヲ受理シタル場ハ前條第一項各號ノ調査ヲ遂ケ其ノ支障ナキモノニ限り之ヲ承認スベシ

前項ノ規定ニ依リ承認シタルトキハ臺帳ニ登載ノ上其ノ届書ニ別記様式第一號ニ依ル承認ノ印ヲ押捺シ之ヲ届出人ニ交付スベシ

第三條 規則第七條ノ規定ニ依ル移動式原動機ノ使用届ヲ受理シタルトキハ同第八條各號ノ一ニ該當スルヤ否ヤヲ調査シ其ノ支障ナキモノニ限り之ヲ承認スベシ

第四條 規則第十條ノ規定ニ依ル汽罐又ハ蒸罐ノ水壓試験ノ願出アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ進達スベシ

第五條 規則第十一條ノ規定ニ依ル原動機設置竣工届ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ遲滯ナク之ヲ進達スベシ但シ規則第三條但書ニ掲グル原動機ニ付テハ此ノ限りニ在ラズ

第六條 規則第十一條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ爲シ支障ナシト認ムルトキハ同條第二項

ノ規定ニ依リ別記様式第二號ニ依ル原動機検査證ヲ下付スベシ
 第七條 規則第十三條ノ規定ニ依ル原動機検査證ノ再下付又ハ書替ノ願出アリタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ進達スベシ

第八條 規則第十四條第一項ノ規定ニ依ル原動機ノ検査ニ際シテハ主任巡查又ハ受持巡查ヲ立會セシムベシ

第九條 規則第十四條第一項ノ規定ニ依リ原動機ノ検査ヲ爲シタル検査官吏ハ検査終了後遲滯ナク左ノ事項ヲ報告スベシ

- 一 工業場ノ名稱
- 二 検査月日
- 三 原動機ノ種類
- 四 取扱主任ノ適否
- 五 危害部分ノ有無
- 六 規則第十八條ノ規定ニ依ル處分ノ要否

第十條 規則第十九條ノ規定ニ依ル汽罐又ハ蒸罐ノ異狀部分ニ對スル修理ノ届ヲ受理シタ

ルトキハ遲滯ナク之ヲ進達スベシ

第十一條 規則第二十條第二十一條及第二十五條ノ規定ニ依ル届ヲ受理シタルルトキハ其ノ事實ニ付調査ヲ遂ゲ遲滯ナク之ヲ進達スベシ

第十二條 規則第二十二條及第二十四條ノ規定ニ依リ原動機取扱主任ノ改任ヲ命ジ又ハ許可ノ取消ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ付シ遲滯ナク之ヲ進達スベシ

第十三條 當該官吏及警察官吏ハ原動機設置又ハ使用ノ場所ニ臨檢スベシ

第十四條 所轄警察署長ハ別記様式第三號ニ依ル原動機臺帳ヲ備置スベシ

別記様式第一號

第 號

届出ノ件承認ス

昭和 年 月 日

警察署 印

工業労働者最低年齢法施行細則

(大正十五年七月二十日
宮崎縣令第五十六號)

工業労働者最低年齢法施行細則左ノ通之ヲ定ム

工場労働者最低年齢法施行細則

第一條 本令ニ於テ法ト稱スルハ工業労働者最低年齢法ヲ謂フ

第二條 十六歳未滿ノ者ヲ法第一條各號ノ一ニ設當スル工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ第一號様式ニ依リ使用後十日以内ニ之ヲ届出ツヘシ

第三條 使用者ハ法第三條ノ規定ニ依ル名簿ヲ第二號様式ニ依リ調製シ其ノ寫ヲ十日以内ニ届出ツヘシ

前項ノ名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ加除訂正シ併セテ其ノ異動ヲ届出ツヘシ

第四條 業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル者アリタル場合ニ於テハ工業主ハ遅滞ナク左記事項ヲ届出ツヘシ

一 労働者ノ住所氏名及生年月日

二 工業ノ種類及本人ノ從事シタル作業名

三 負傷又ハ疾病ノ部位程度若ハ症状

四 死亡ノ原因

五 傷病者ニ對スル措置ノ概況

第五條 本令第二條乃至第五條ノ規定ニ違反シ又ハ名簿ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第六條 本令ニ於テ知事ニ届出ツベキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第七條 本令ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニハ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 二、記載簿ノ順序ハ本様式ニ係ルコト
- 三、學歷欄ニハ本人ノ學業上ノ履歴ヲ明記スルコト
- 四、雇入欄ニハ雇入又ハ雇入更新ノ年月日雇入期間其ノ他雇入ニ關スル重要ナル事項ヲ記載ノコト
- 五、作業欄ニハ主トシテ本人ノ就業スル作業名ヲ記載スルコト但シ二以上ノ作業ニ就業スル場合ハ其ノ作業名ヲ列記シ其ノ範圍内ノ異動ハ届出ツルノ必要ナキコト
- 六、解雇欄ニハ解雇ノ年月日、事由、其ノ他解雇ニ關シ重要ナル事項ヲ記載ノコト
- 七、備考ニハ滿十六歳ニ達スル年月日就業時間其他必要ナル事項ヲ洩レナク記載ノコト

保發第五八〇號

通達 (例規)

大正十五年七月二十七日

各警察署長殿

宮崎縣警察部長

工業勞働者最低年齡法取扱ニ關スル件

大正十二年三月法律第三四號工業勞働者最低年齡法及本年六月內務省令第十四號同法施行

規則ハ共ニ本年七月一日ヨリ施行サレタルニ付之ガ施行細則ハ本月二十日付宮崎縣令第五十六號ヲ以テ公布ト同時ニ施行相成候ニ付テハ法第一條各號ニ列記スル事業ヲ營ム事業所ニ對シ十六才未滿ノ勞働者ヲ使用ノ有無ニ付テハ常ニ注意視察スルノ外左記ニ依リ取扱相成度及通達候也

記

- 一 施行規則附則第二項ノ規定ニ依ル届又ハ施行細則第二條第三條及第四條ノ届ヲ受理シタル場合ハ事實ヲ調査シ進達ノコト
- 二 施行細則第三條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ名簿ノ寫及事業所ニ備付クル名簿ノ備考欄ニ其ノ者ノ受クヘキ賃金日額及支拂期日ヲ記載セシムルコト
- 三 違反者ハ左記事項ヲ都度報告ノコト
 - イ 違反者ノ業名及住所氏名
 - ロ 違反シタル條項
 - ハ 違反及處罰ノ年月日
 - ニ 戒告又ハ告發ノ別

- ホ 告發シタル者ニ對シテハ處罰ノ有無
 - 四 第一號第二號ノ届ハ派出所、駐在所ニ於テ之ヲ受理スルコト
 - 五 毎年視察ノ方針、成績及時ニ調査シタル事項其他參考トナルヘキ事項ヲ別表ニ依ル違反件數ト共ニ毎年二月十五日迄ニ前年分ヲ報告スルコト
- 工業労働者最低年齢法違反件數

業 務 一 別	第 二 條 違 反		第 三 條 違 反		備 考
	戒 告	告 發 處 罰	戒 告	告 發 處 罰	
第一條第一號ノ事業 (鑛業及砂鑛業ヲ除ク)					
第一條第二號ノ事業 (工場法適用工場ヲ除ク)					
第一條第三號ノ事業					
第一條第四號ノ事業					
第一條第五號ノ事業					
計					

労働者募集取締令施行規則

(宮崎縣令第十五號
大正十四年五月一日)

- 第一條 労働者募集取締令(以下單ニ取締令ト稱ス)又ハ本令ニ依リ知事ニ提出スヘキ願書届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第二條 取締令第三條第一項第四號ノ事項ニ關スル記載ハ作業ノ區分ニ從ヒ洩レナク之ヲ列記スベシ
- 第三條 取締令第三條第一項第五號ノ事項ニ關スル記載ハ晝間作業ト夜間作業トニ分チ少クトモ左記事項ヲ明記シ且季節ニ依ル變更ヲ明ニスヘシ
 - 一 就業時間ニ付テハ始業、終業ノ時刻
 - 二 休憩時間ニ付テハ回数、時數及其ノ配置
 - 三 休日ニ付テハ日數及其ノ配置
 - 四 夜間作業ニ付テハ晝間作業ト夜間作業トノ配置及其ノ就業轉換ノ方法
- 第四條 取締令第三條第一項第六號ノ事項ニ關スル記載ハ賃金ノ支拂方法及支拂期日ヲ詳記スルノ外賃金ノ計算方法ニ關シ少クトモ左記事項ヲ明記スベシ

- 一 見習又ハ養成ノ期間及其ノ期間中ニ於ケル手當ノ額
 - 二 日給又ハ出來高賃金ノ別並日給ノ場合ニ於ケル最低賃金額及出來高拂ノ場合ニ於ケル賃金計算ノ基礎
 - 三 賃金ノ昇給又ハ歩増ノ標準
- 工場法施行令第二十四條但書ニ依リ貯蓄ヲ爲サシムル場合ニ於テハ其ノ方法利率及貯蓄額ノ賃金支拂額ニ對スル割合ヲ明記スベシ
- 第五條 取締令第一條第一項第七號負擔ニ關スル事項ノ記載ハ同號列記事項ノ外醫療費、作業服費、共濟組合費其ノ他必然ナル費用ノ負擔ヲ明ニシ且應募者ニ負擔セシムヘキモノニ付テハ其ノ定額又ハ割合ヲ明記スヘシ
- 往復旅費其ノ他一時募集主ニ於テ立替ヘ置キ之ヲ應募者ヨリ償却セシムルモノアルトキハ其ノ徵收方法ヲ明記スヘシ
- 第六條 取締令第三條第一項第八號ノ事項ニ關スル記載ハ制裁ヲ科スヘキ事由及其ノ制裁方法ヲ明記シ且制裁規程ノ定アル場合ニ於テハ之ヲ添付スヘシ
- 第七條 取締令第三條第一項第九號ノ事項中解雇ニ關スル記載ハ少クトモ左記事項ヲ明記シ且解雇ニ關スル規程ノ定メアル場合ニ於テハ之ヲ添付スヘシ

- 一 募集主ノ都合ニ依ル解雇ニ付テハ其ノ事由及豫告期間
 - 二 募集者ノ都合ニ依ル解雇ニ付テハ其ノ申出又ハ之ニ對スル諾否ニ關スル制限
 - 三 前各號ノ場合ニ於テ支給スル解雇手當ノ額又ハ割合及歸郷旅費支給ノ有無
- 第八條 取締令第三條第一項第十號ノ事項ニ干スルヲ記載ハ扶助救濟ヲ與フヘキ場合及其扶助救濟ノ方法ヲ列記シ且扶助規則ヲ添付スヘシ
- 第九條 取締令第三條第三項及同第九條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベキ期日ハ其ノ事實發生ノ時ヨリ三日以内トス
- 第十條 取締令第四條第一項ノ規定ニ依ル募集從事ノ許可申請書ニハ同第三條ノ規定ニ依リ募集主ノ届出タルモノト同一ノ就業案内又ハ雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配付スベキ文書ヲ添付スヘシ
- 前項ノ規定ニ依ル添付書類ハ取締令第三條ノ規定ニ依ル届出書類ト同一ナルコトヲ證スヘキ就業場所在地所轄當該官署ノ檢印アルモノタルコトヲ要ス但シ同第三條ニ規定スル所轄官廳カ本縣知事ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ規定ニ依リ檢印アルコトヲ要スル添付書類ニシテ本令第二條乃至第八條ニ規定ス

ル事項ヲ具備セサルモノアルトキハ書面ヲ以テ之ヲ補足スヘシ

第十一條 取締令第四條第一項及第五條第四項ノ規定ニ依リ添付スヘキ寫眞ハ最近六箇月以内ノ撮影ニ係ル脱帽半身ノ名刺形又ハ手札形大ト爲スヘシ

第十二條 左記各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ取締令第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲サ、ルコトアルヘシ

- 一 禁治産者又ハ準禁治産者
- 二 文書又ハ印章偽造、猥褻、姦淫、賭博、殺人、傷害、墮胎、遺棄、逮捕、監禁、脅迫、略取、誘拐、窃盜、強盜、詐欺、恐喝、横領又ハ贓物ニ關スル罪ヲ犯シタル者
- 三 密賣淫ノ容止又ハ媒合ノ罪ヲ犯シタル者
- 四 紹介、周旋ノ營業取締ニ關スル法規ニ依リ營業ノ許可ヲ取消サレタル者
- 五 藝妓、娼妓又ハ酌婦等ノ紹介周施ヲ業トスル者
- 六 料理屋、貸座敷、待合、藝妓屋其ノ他之ニ類スル營業ヲ爲シ又ハ是等營業者ト同居スル者

七 前各號ノ外公安ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリ又ハ其ノ他募集従事者トシテ不適當

ナリト認ムル者

第十三條 取締令第四條ノ規定ニ依ル募集従事ノ許可ハ募集従事期間又ハ募集區域ニ付必要ナル制限ヲ附シ之ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條 募集従事者ハ取締令第六條又ハ同第十七條ノ規定ニ依ル提示ニ備フル爲募集従事中常ニ募集従事者證ヲ携帯スヘシ

第十五條 取締令第八條第一項ノ規定ニ依リ募集従事者證ヲ返納スヘキ期日ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外同項各號ノ事實發生ノ時ヨリ五日以内トス

第十六條 取締令第九條第一項ノ規定ニ依ル届出ハ募集著手三日前迄ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依ル著手届ノ添付書類ハ取締令第三條ノ規定ニ依ル届出書類ト同一ナルコトヲ證スヘキ就業場所在地所轄當該官署ノ檢印アルモノタルコトヲ要ス

前項ノ添付書類ニシテ本令第二條乃至第八條ニ規定スル事項ヲ具備セサルモノアルトキハ書面ヲ以テ之ヲ補足スヘシ

第十七條 取締令第九條又ハ同第十五條ノ規定ニ依リテ届出タル募集従事中ノ居所、事務所若クハ應募者ノ集合所又ハ宿泊所ハ當該官吏ニ於テ之ヲ臨檢スルコトアルヘシ

募集従事者ハ前項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス
 第十八條 取締令第十四條ノ規定ニ依ル應募者出發屆ハ第一號様式ニ依ルヘシ
 第十九條 取締令第十六條ノ規定ニ依ル措置ヲ爲シタル場合ニ於テハ左記事項ヲ具シ五日
 以内ニ募集地所轄警察官署長ニ之ヲ届出ツヘシ

- 一 應募者ノ住所氏名
- 二 歸郷セシムルニ至リシ事由
- 三 措置ノ概要

取締令第十六條ノ規定ニ該當セサル場合ト雖應募者ヲ採用セサルトキハ募集従事者又ハ
 募集主ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ募集地所轄警察官署長ニ届出ツヘシ
 第二十條 募集従事者取締令第十八條第二項ノ處分ヲ受ケタルトキハ其ノ募集従事者證ハ
 停止期間中之ヲ募集地所轄警察官署ニ領置ス
 第二十一條 第十四條第十五條第十七條第二項又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留
 又ハ科料ニ處ス

第一號様式

應募者出發屆

就業場ノ所 在地又名稱	出發ノ日時	月 日 午前 午後 時 分	到着 定月日	引率 者ノ 氏名	應募者住所	氏名	生年月日	承諾ヲ與ヘタル者ノ氏名
					旅行豫定	集合所 經路 宿泊所	氏名	

右及御届候也

募集従事者氏名印

昭和年月日

警察署長宛

労働者募集取締ニ關スル件

(大正十四年五月十五日)
警訓第一號

曩ニ労働者募集取締令及同施行規則ノ施行ヲ見タルカ今日労働者ノ募集ニ關シ全國ニ互リテ統一的取締ヲ行フニ至リタルハ募集ニ伴フ諸種ノ弊害ヲ除去シ應募者保護ノ目的ヲ達成セムトスルニ出テタルモノナルヲ以テ之カ施行ニ關シテハ概ネ左記ニ依リテ之ヲ取扱ヒ取締ノ徹底ニ努メ目的達成上遺策ナキヲ期スベシ

記

- 一 取締令第三條ノ規定ニ依リ募集開始前ニ届出ツヘキ就業案内又ハ雇傭契約書案ニ記載スヘキ事項ハ同條第一項各號ニ明示スル所ナルカ各號ノ事項中第四號乃至第十條ノ事項ハ労働條件ニ關スル最重要ナル事項ニシテ詳細明示セシムルノ必要アルヲ以テ規則第二條乃至第八條ノ規定ニ依リ具体的ニ記載セシムルコト
- 二 前項ノ文書及取締令第三條第二項ノ規定ニ依リ募集ニ關シ配布スヘキ文書ハ届出アリタルトキハ其ノ内容ニ關シ誇大虚偽ノ記載ナキヤテ調査シ意見ヲ附シテ進達スルコト
- 三 取締令第三條第三項ノ規定ニ依リ就業案内雇傭契約書案其他ノ文書ノ變更届出ヲ受理シタルトキ又前二項ニ準シテ之ヲ取扱フコト尙ホ右届出ハ規則第九條ノ規定ニ因リ三日以内ニ届出ツヘキモノナルニ依リ之ヲ怠ルコトナキ様留意セシムルコト
- 四 取締令第四條ノ規定ニ依リ募集從事ノ許可申請書ニハ寫眞ノ外規則第十條第一項ノ規定ニ依リ取締令第三條第一項ノ規定ニ基キ届出タル就業案内又ハ雇傭契約書案其他募集ニ關シ配付スヘキ文書ノ全部ヲ添付セシムヘキモノナルニ依リ添付洩レナキ様注意セシムルコト
- 五 就業場所在地カ縣内ニ在ラサル場合ニ於テハ前項ノ添付書類ハ規則第十條第二項ノ規定ニ基キ就業場所在地所轄當該官署(警察部、工場課、保安課、鑛業砂鑛業ニ在リテハ鑛山監督局等ヲ含ム)ノ檢印アルモノタルトテ要スルニヨリ之ナキモノハ受理セサルコト(檢印ノ形式ハ各府縣一定セサルモ官印タルコトヲ認メ得ヘキ限リ差闕ナシ)
- 六 前項ノ添付書類カ規則第十條第三項ノ規定ニ依リ書面ヲ以テ補足セシムルコトヲ要スルモノナルトキハ之ヲ備ヘサルモノハ受理セサルコト
- 七 募集從事ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査ノ上許否ニ關スル意見ヲ付シ進達スルコト

- イ 取締令第四條第一項各號ノ事項ヲ洩レナク記載シ居ルヤ
- ロ 添付ノ寫眞ハ規則第十一條ノ規定ニ反セサルヤ
- ハ 性質素行
- ニ 實力及信用ノ程度
- ホ 學力ノ程度
- ヘ 規則第十二條各號ノ一ニ該當スルコトナキヤ
- ト 其ノ他參考トナルヘキ事項
- 八 募集従事ノ許可ニ際シ従事期間又ハ従事區域ニ關シ規則第十三條ノ規定ニ因ル制限ヲ付スルノ必要アリト認メタルトキハ申請ノ奈何ニ拘ラス其ノ事由ヲ具シ前項ノ意見書ニ詳記スルコト
- 九 取締令第四條第三項ノ出願ニ對シテハ可成許可セサル方針ナルモ願書ヲ受理シタル場合ハ應募者ノ保護及取締上規則第十三條ノ制限ノ要否及許否ニ關スル意見ヲ付シ進達スルコト
- 十 取締令第五條第二項若クハ第三項ノ規定ニ因ル再下付若クハ書換ノ出願又ハ同第七條

- 若ハ規則第十九條ノ規定ニ因ル届ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ調査進達スルコト
- 十一 取締令第八條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ募集従事者證ヲ返納スヘキ期日ハ規則第十五條ノ規定ニヨリ五日以内ト定メアルヲ以テ違反事項ヲ發生セシメサル様特ニ注意セシムルコト
- 十二 規則第十六條第一項ニ於テ取締令第九條第一項ノ規定ニ依ル募集著手届出テ著手三日前迄ニ爲サシムルノ規定ヲ設ケタルハ著手前ニ添付書類ノ審査、従事者ノ調査等ヲ爲シ得ルノ便ヲ考慮シタルニ依ルヲ以テ直ニ十分ノ調査ヲ遂ケ差岡ナシト認メタルトキハ三日ノ期間ヲ置カスシテ著手セシムルモ差岡ナキコト尙ホ添付書類ノ適否ヲ審査スルハ勿論ナルモ檢印アル文書ニシテ規則第二條乃至第八條ニ規定スル事項ヲ具備セルモノアルトキハ規則第十六條第三項ノ規定ニ依ル補足ヲ遺漏セサル様注意セシムルコト
- 十三 募集著手届ニハ取締令第九條第一項各號ノ事項ノ外募集區域トシテ其ノ署官内ニ於テ實際募集セムトスル市町村名ヲ記入セシメ又募集期間ニ就テハ事實必要ナル期間ヲ記入セシメ長キモ六箇月ヲ限リ爲サシムルコト

十四 取締令第九條又ハ同第十五條ノ規定ニヨリ届出タル募集中ノ居所、事務所若クハ應募集者ノ集合所又ハ宿泊所ニ對シテハ必ス一回以上（長期ニ亘ルモノニ付テハ少クトモ毎月一回以上）規則第十七條ノ規定ニ依リ臨檢シ書類簿冊ノ檢閲ヲ爲シ其ノ記載事項ニ對シ虛偽ノ記載ノ有無竝取締令第十二條各號ノ一ニ該當スルコトナキヤテ調査シ必要ニ依リテハ募集上ニ關シ警告ヲ爲スコト尙ホ募集従事者證ノ點檢ハ隨時之ヲ行フコト

十五 取締令第十四條ノ規定ニ基ク應募者出發届ハ規則第十八條ノ様式ニ依ラシムヘキモノナルカ其ノ届出ハ募集地ノ駐在所又ハ派出所ニ直接之ヲ提出セシムルコト

十六 取締令第十四條第一項ノ規定ハ届出後三日ノ後ニ非サレハ出發ヲ許可スヘカラサルノ注意ナルカ如シト雖モ右ハ家庭訪問點檢其ノ他必要ナル取締調査ノ便テ目的トスルモノナルヲ以テ届出テ受理シタルトキハ直ニ調査ヲ爲シ事實不都合ナキ場合ニ於テハ三日ノ期間満了ヲ俟タスシテ出發モシムルモ差岡ナキコト

十七 應募者ノ増加變更ノ届出ハ點檢調査ニ支障アル場合ニ於テハ之ヲ新ナル届出トシテ更ニ出發迄ニ三日間ノ滯留ヲ命シ得ヘキ筋合ナルヲ届出テ受理シタルトキハ直ニ點檢

調査ヲ遂ケ事實支障ナキ場合ハ第十四條第二項ノ變更届出トシテ處理シ必スシモ三日間ノ滯留ヲ強制スルノ要ナキコト

十八 出發届ヲ受理シタルトキハ少クモ左記事項ヲ調査シ取締上必要ナル措置ヲ爲スヘキコト

イ 募集従事者ハ取締令第十二條各號ニ規定スル方法手段ヲ以テ募集シタルコトナキヤ
 ロ 未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ニ付テハ取締令第十三條ニ規定スル者ノ承諾ヲ得タルヤ

ハ 應募者ノ住所氏名及生年月日又ハ承諾ヲ與ヘタル者ニ虛偽ノ記載ナキヤ
 ニ 前渡金前貸金又ハ仕度金トシテ支拂タル金額

十九 取締令第十八條ノ規定ニ依リ募集従事者ニ對シ許可ノ取消又ハ募集ノ停止處分ヲ爲スノ必要アリト認メタル場合ハ左記事項ヲ具シ其旨上申スルコト

イ 本籍、住所、氏名及生年月日
 ロ 所屬就業場ノ所在地及名稱
 ハ 取消又ハ停止ノ處分ヲ必要トスル事由

其ノ他参考事項

- 二十 取締令第十八條第二項ノ規定ニ依ル募集ノ停止處分ノ結果從事者證ヲ領置シタルトキハ從事者證記事欄ニ停止事由及停止期間ヲ記入シ置キ期間滿了後之ヲ交付スルコト
- 二十一 募集從事者ニ付テハ第一號様式ニ依リ臺帳ヲ作製シ募集從事許可ノ通知アリタルトキ又ハ關外ニ於テ募集從事ノ許可ヲ受テ縣内ニ於テ募集スルモノニ付テハ其ノ著手届ヲ受理シタルトキ之ヲ登載スルコト
- 二十二 應募者數ハ毎月出發届ニ依リテ調査シ翌月十日迄ニ第二號様式ニ依リテ報告スルコト
- 二十三 取締令及規則ノ定ムル罰則ヲ適用シタル違反事項ニ付テハ第三號様式ニ依リテ年表ヲ調製シ翌年一月二十日迄ニ報告スルコト

第一號様式(用紙半紙)

募集區域	募集從事期間	事業ノ種類	就業場所在地及名稱	募集主	從事證	第	號	許可年月日	昭和	年	月	日
					募集從事者本籍住所氏名及生年月日	年	月	日生				

第二號様式

計	就業場名	市町村別		計
		性別	市町村	
		男	何	
		女	市	
		男	何	
		女	町	
		男	何	
		女	村	
		男	何	
		女	村	
		男	何	
		女	村	
		男	計	
		女		

月分應募者調査表

月 日 報

警察署長

記載例、備考欄ニハ從事期間ノ繼續事由、處分事項其ノ他必要ナル記事ヲ登記スルコト

考	備	事務所

保發第一四一號

昭和六年五月十三日

宮崎縣警察部長

縣下各警察署長殿

工場法ノ適用ヲ受クル工場監督ニ關スル件

今回縣令第一二號ヲ以テ工場法施行細則及訓令第一〇號ヲ以テ工場法令施行手續改正セラレ公布ト同時ニ施行セラレ候處尙工場監督ノ徹底ヲ期スルニ就テハ少數專任官吏ノミヲ以テシテハ基タ不充分ナルヲ以テ自今特ニ指揮スベキ場合ノ外左ノ各項ニ付テハ貴官自ラ又ハ貴部下ヲシテ工場法第十四條ノ規定ニ依ル當該官吏トシテ時々工場ニ監檢シ其ノ他適當ノ方法ニ因リ常時之ガ監督取締並ニ調査ニ任ジ工場法令施行ノ徹底ヲ期セラルベシ

記

- 一 工場法ノ適用事由發生屈出ニ關スル事項（工場法第一條、工場法施行細則第一條及第五條）
- 二 就業時間、休憩時間、休日並ニ其ノ周知方法ニ關スル事項（工場法第三條、第四條、第七條、第八條、工場法施行規則第四條、第十二條第二項及工場法施行細則第六條乃至第十二條）

- 三 職工ノ扶助及其ノ屈出並ニ書類ノ保存ニ關スル事項（工場法施行令第五條乃至第九條第十四條工場法施行規則第十九條及工場法施行細則第十五條）

- 四 職工ノ重大過失ニ因ル災害ニ關スル事項（工場法施行令第七條ノ二及工場法施行細則第十六條）

- 五 職工扶助規則及其ノ周知方法ニ關スル事項（工場法施行令第十九條及工場法施行規則第十三條）

- 六 職工名簿ノ備付及其ノ保存ニ關スル事項（工場法施行令第二十一條及工場法施行規則第十六條、第十七條）

- 七 職工賃金支拂及其ノ簿冊ノ備付ニ關スル事項（工場法施行令第二十二條、第二十三條及工場法施行細則第十八條、第二十五條）

- 八 職工貯蓄金管理及管理規程ノ周知方法並ニ現物給付ニ關スル事項（工場法施行令第二十四條、第二十五條及工場法施行細則第十九條乃至第二十五條）

九 歸郷旅費ノ支給及其ノ届出ニ關スル事項（工場法施行令第二十七條及工場法施行細則第十五條）

一〇 職工ノ雇入、解雇及解雇手當ノ支給並ニ書類ノ保存ニ關スル事項（工場施行令第二十七條ノ二、工場施行規則第十九條及工場法施行細則第二十六條、第二十八條）

一一 就業規則ノ届出及其ノ周知方法ニ關スル事項（工場法施行令第二十七條ノ四及工場法施行規則第十三條第一項）

一二 工場ニ於テ發生シタル災害及其ノ報告並ニ職工ノ健康診斷及其ノ届出ニ關スル事項（工場法施行規則第二十五條、第二十六條及工場法施行細則第三十條第三十一條）

一三 工場附屬寄宿舎ノ設置場所、出入口及避難出口ニ關スル事項（工場附屬寄宿舎規則第二條、第四條及全施行細則第二條ノ三）

一四 職工ノ食堂、炊事場、食事及食器ニ關スル事項（工場附屬寄宿舎規則第八條、第十三條及第十四條）

一五 寄宿舎ニ於ケル一室ノ定員、一人當床面積、氏名ノ掲出及寢具ニ關スル事項（工場附屬寄宿舎規則第九條、第十條及第十二條）

一六 寄宿職工ノ健康診斷及其ノ届出、唾壺ノ設備並ニ傳染性疾患ノ豫防ニ關スル事項

（工場附屬寄宿舎規則第十六條乃至第十九條及全施行細則第七條）

一七 寄宿舎管理規程ノ掲出ニ關スル事項（工場附屬寄宿舎規則第二十二條）

一八 工場危害豫防ノ設備及其ノ設備ノ取外シニ關スル事項（工場危害豫防及衛生規則第二條、第十條、第十五條及第十九條）

一九 工場ニ於ケル危険ナル部分及場所ノ標示及火氣ニ關スル事項（工場危害豫防及衛生規則第十八條第二十一條第二項及第二十七條）

二〇 工場ニ於ケル通路、階段、避難出口及救急用具ノ備付ニ關スル事項（工場危害豫防及衛生規則第二十三條乃至第二十五條、第三十二條及全施行細則第四條、第五條）

二一 工場ニ於ケル食堂、炊事場、食器、更衣所及浴場ニ關スル事項（工場危害豫防及衛生規則第三十三條第三十四條）

二二 工場ニ於ケル危害豫防又ハ除害方法ニ關スル事項（工場危害豫防及衛生規則第三十五條）

保發第三七〇號 (令達)

昭和七年十一月十六日

宮崎縣警察部長

各警察署長殿

酸素アセチレン又熔接作業取締ニ關スル件

近時瓦斯熔接業頓ニ其ノ數ヲ増シ之カ取締ハ工場法施行令第三條第三十八號及本縣令工業場取締規則第一條第一項第四號ニ該當シ從來相當取締相成居候處未タ別紙取締事項ノ如キ具體的指示ナク從而取扱方區々ニシテ取締上遺憾トスル点多シ依而左記項目ニ從ヒ全作業ニ依ル災害ヲ未然ニ防ク様徹底セシメラレ度此段及通達候也

- 一 「カーバイト」ハ直ニ作業ニ必要ナルモノノ外ハナルベク乾燥セル貯藏所ニ置クベシ
- 二 「カーバイト」罐ハ熔接室内ニ置クヘカラズ又火氣ヲ近ヅケシムルベカラズ
- 三 アセチリン發生室内ニカーバイト罐ヲ置ク場合ハ臺ヲ設ケ其ノ他濕氣ヲ防グ方法ヲ講ズベシ
- 四 カーバイト罐ハ乾燥シタル場所ニテ開罐スベシ

- 五 カーバイト塊ヲ破壊スルタメ又ハ容器ヲ開罐スル場合ニ鐵棒ニテ打撃セバ火花ヲ發スルコトアルヲ以テ若シアセチレン瓦斯ノ飛散スル場合ハ爆發ヲ起スコトアルベシ
- 六 カーバイト罐ハ槌ト鑿ヲ使用シテ開クヨリモ罐切ノ如キモノヲ使用スルガ安全ナリ
- 七 酸素圓筒及アセチレン圓筒ノ貯藏運搬取扱ハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第二十四條ヲ遵守スベシ
- 八 アセチレン發生器ハ主要建物外ノ通風ヨキ小屋ニ据付クベシ小屋ハ主要建物ノ開口ト直面セザル様ニスベシ止ムヲ得ザル場合ハ適當ニ防火設備ヲナスベシ
- 九 發生室又ハ其附近ニ於テ照明ヲ必要トスル場合ハ灼熱ニ耐氣外球ヲ被覆シタルモノ又ハ携帯電燈ヲ使用スベシ發生器室内又ハ其附近ニ於テハ火氣ノ使用及喫煙ヲ嚴禁シ見易キ箇所ニ其旨揭示シ置クベシ
- 一〇 發生器室内電氣スキツチ又ハフユウズハ火花ヲ發シ又ハ熔融切斷スルタメアセチレン瓦斯ト空氣トノ混合物ヲ爆發セシムル虞アルヲ以テ之レ等ノ危險ナキ様安全構造トナスベシ可搬發生器ノ使用セラル、場所ニ於テモ亦注意ヲ要ス
- 一一 可搬アセチレン發生器ハ通風良好ナル場所ニシテ火氣及可燃物質ヨリ隔レタル位置

ニ於テノミ使用スベシ

- 一二 可搬アセチレン發生器ヲ使用セザル時ハ八項ニヨリ格納シ置クベシ
- 一三 可搬アセチレン發生器ノ清掃及カーバイト填換ハ格納小屋又ハ戶外ニ於テ行フヘシ
- 一四 發生器及其附屬品ハ常ニ整頓シ置クベシ
- 一五 發生器ハ晝間ニ於テ清掃填換ヲナスベシ止ムヲ得ザル場合ハ適當ナル電燈又ハ携帯電燈ニ限り使用スベシ
- 一六 酸素アセチレン吹管ト酸素及アセチレン配給管トノ接合ハ堅牢ナルホースヲ使用スベシ
- 一七 前項ノホースノ接合ハ噴キ外ヅサレルノ虞アルヲ以テ適當ナル締金ヲ使用スベシ又接合ガ弛緩シ居ラザルヤ否ヤヲ検査スベシ
- 一八 ホースト酸素アセチレン吹管トヲ接合ノ際ハ酸素トアセチレンヲ取違ヘル事ナキ様ニスベシ
- 一九 アセチレン配給管ニハ安全水弁ヲ附スベシ又多クノ吹管ヲ使用スル場合ハ各吹管ニモ水弁ヲ使用スベシ水弁ハ毎日検査整頓ヲナスヘシ

二〇 發生器ノ製造者ガ定メタル以外ノ重鎮ハ浮揚瓦斯溜ニ附加使用スルハ危険ヲ醸スルコトアルベシ

- 二一 低壓式ニ使用スル吹管ヲ高壓ノモノニ使用スベカラズ但シ適當ナルアセチレン調整弁ヲ使用シタル時ハ使用スルモ差支ナシ
- 二二 酸素アセチレン及圓管ニハ常ニ減壓弁ヲ取付ケ使用スベシ
- 二三 瓦斯圓筒弁特ニ酸素圓筒弁ハ常ニ徐々ニ開クベシ
- 二四 酸素圓管ノ弁附屬器具管類ニハ油脂ノ類ヲ使用スベカラズ
- 二五 吹管又ハ酸素圓筒ヲ交換セシムルトキハ常ニアセチレン配給管ヲ閉塞スベシ
- 二六 酸素又ハアセチレン圓筒ノ漏洩ヲ發見シタルトキハ直ニ閉塞スルカ又ハ圓筒ヲ安全ナル場所ニ移スベシ
- 二七 アセチレン發生器ノ修理ヲナス場合ハ瓦斯溜其他ノ部分ニアセチレンノ存在スル事ナキカヲ確カメタル後作業ニ着手スベシ
- 二八 アセチレン發生器弁及ビ減壓器ノ凍結シタル場合ハ温湯ヲ用ヒテ溶解ヲ火氣又ハ加熱シタル金屬棒等ヲ用フベカラズ

- 二九 酷寒中發生器ヲ使用セズシテ放置スル場合ハ水ヲ排除シ置キ凍結膨脹ノタメ金屬部
 三〇 破裂ヲ防クベシ
 三一 特ニ換氣設備ヲナスベシ
 三二 酸素アセチレン熔接ヲ行フ室ニハ適當ナル消火設備ヲナスベシ
 三三 熔接ニ從事スル者ニハ手袋又ハ籠手及保護眼鏡ヲ給與スベシ眼鏡ハ有色レンズヲ容
 易ニ入レ換エ得ルモノヲ可トス
 三三 カーバイト瓦斯圓筒及熔接ニ使用セラル、器具取扱ニハ係リテ定メ置クベシ係リ以
 外ノ者ハ監督者ノ指揮ナクシテ妄リニ接觸取扱ヲナスベカラズ

以上

社發一部第八五號

大正十四年十月十四日

宮崎縣知事殿

社會局 第一部長

軍需工業動員法ニ因ル保護工場監檢ニ關スル件

軍需工業動員法第十七條ハ工業的發明ニ係ル物又ハ方法ニ關シ豫メ政府ノ承認ヲ得タル事
 項又ハ設備ニ付テノ報告、検査其ノ他従業員ニ對スル質問ヲ禁止致居候處同條ハ同法第十
 一條乃至第十三條及第十六條ニ依リ工場、事業場等ノ所有者、管理者従業員等ニ對シ負ハ
 シメタル負擔ノ一部ヲ解除スルモノニ有之工場法第十四條ニ基ク權限ヲ制限スル義ニ無
 之候得共工場監檢ノ實際ノ運用ニ付テハ軍需業工動員法第十七條ノ精神ヲ尊重シ當該發明
 ノ保護ニ必要ナル限度ニ於テハ工場法施行上必要止ムヲ爲サル場合ノ外工場法第十四條ノ
 權限ヲ行使セザル様御留意相成度

保發第八九號

通達

昭和五年四月二日

官崎縣警察部長

縣下各警察署長殿

工場ノ災害報告ニ關スル件

工場ニ於タル職工ノ業務ニ起因スル死傷及工場火災其ノ他ノ災害發生ノ場合ハ工場法施行規則第廿五條第廿六條ノ規定ニ依リ夫々報告書達達相成居リ候處往々ニシテ其ノ様式ノ記載ニ因ラサル向有之處理上支障不尠ニ付其ノ署管内全事業主ニ警告ヲ發スルト共ニ自今左記ニ依リ取扱ヒ遺策ナキヲ期セラレヘク及通達候也

記

- 一 工場法施行規則第廿五條ノ場合ハ左ニ準據シ報告セシムルコト
 - イ 休業三日以上十三日迄ノトキハ報告書一通ニテ差支ナキコト
 - ロ 休業十四日以上又ハ死亡シタルトキハ報告書二通ヲ提出セシムルコト
 - ハ 休業二日迄ノ見込ノ者治療其ノ他ノ關係上休業三日以上ニ達シタルトキハ必ス報告

書ヲ提出セシムルコト

ニ 休業十三日迄ノ見込ノ者治療其ノ他ノ關係上十四日以上ニ達シタルトキハ更ニ報告

書一通ヲ提出セシメ之ヲ二通トスルコト

二 工場法施行規則第廿六條ノ場合ハ必ス報告書二通ヲ提出セシムルコト

三 各様式各欄ノ記載ハ左ニ準據セシムルコト

イ 各報告書ノ災害原因欄ノ記載方往々不十分ナルモノ在リテ要ヲ得サルモノアルニ付報告書ヲ受理シタルトキハ特ニ注意シ調査ヲ遂ケ訂正追記セシムル等適當ノ方法ニ依リ完全ヲ期セシムルコト

ロ 各様式中職工數ハ使用職工全員ノ意味ナルヲ以テ職工總數ヲ記載セシムルコト

ハ 其ノ他各欄ノ記載ニ付テモ誤記又ハ記載モレ等ノ有無ヲ精査シ訂正追記等適當ナル方法ニ依リ完全ヲ期セシムルコト

四 左ノ場合ニ於テハ直ニ寫眞ヲ採リ送付スルコト

イ 工場法施行規則第廿五條ニ該當スル場合ニシテ重傷又ハ即死ノトキハ現場ヲ其ノ儘

ニ寫スルコト

- ロ 即死ノ場合ハ其ノ致死傷部ヲ直ニ寫スコト
- ハ 重傷ノ場合ニ負傷當時寫シ得サルトキハ全治後繻帶ヲ除キタルトキ必ス寫スコト
- ニ 工場法施行規則第廿六條ニ該當スル場合ニ於テモ現場ヲ其ノ儘寫スコト
- 五 常時五十名以上ノ職工ヲ使用スル工場ニシテ工場法施行規則第廿四條ノ規定ニ依ル傷病月報ノ提出ヲ怠ル向アルヲ以テ嚴重事業主ヲ取締ルコト

保收第一、三五三號

通達

昭和五年二月廿八日

縣下各警察署長殿

官 崎 縣 警 察 部 長

◎工場法違反事項處理方ニ關スル件

工場法適用工場ニ於ケル職工ニシテ業務上死亡シ又ハ負傷ノタメ三日以上休業ヲ要スル場合並其ノ見込ノトキハ事業主ハ工場法施行規則第廿五條ノ規定（第四號様式）ニ依リ直ニ報告スベキ儀ニ有之候處往々其ノ報告ヲ怠ル者有之候ニ付テ社會局労働部長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條事業主ニシテ死傷報告ヲ怠ル者ニ對シテハ自今嚴重處罰ノ手續ヲ執リ其ノ旨死傷報告書（第四號様式）ノ欄外ニ必ズ附記相成度此段及通牒候也

追テ死傷報告書ノ職工死亡ノ場合及休業十四日以上ニ達スルトキハ二通ヲ要スル儀ニ付相當注意相成度

官崎縣告示第三百七十九號

大正五年十月十二日

工場法第八條季節ニ依リ繁忙ナル業務並同法第十五條業務上ノ疾病ノ種類

工場法第八條季節ニ依リ繁忙ナル業務並同法第十五條業務上ノ疾病ノ種類左ノ通り定メタリ

一 工場法第八條第四項季節ニ依リ繁忙ナル業務左ノ如シ

一 製茶業

發勞第一一號ノ内

昭和六年三月二十八日

社會局 勞働部 長

應府縣長官殿

◎工場法上季節ニ依リ繁忙ナル業務ノ件

主題ニ關シ左記業務ヲ季節ニ依リ繁忙ナル業務トシテ認可方伺出ノ次第有之差支ナキ旨回答置候條御了知相成度

記

一 莫大小業

一 撚糸業

勞發第三三號昭和六年四月九日追認

一 金銀絲製造業（織物用）

一 組紐業

一 レース製造業

一 絲布ノ染色整理加工業

收勞第二〇三號昭和七年十月四日追認

一 小倉服ノ製造

夏服、冬服、ノ製造時期タル三、四、五月頃並八、九、十月頃繁忙ナリト云フ

一 地下足袋ノ製造

防寒兼用トシテ十月頃ヨリ需要ヲ増シ十二月頃迄繁忙ナリト云フ

右孰レモ季節的繁忙ナル事業トシテ取扱可然

發勞第二二號

昭和四年十月十二日

社會局 長 官

地方長官殿

工場法第四條但書許可方針ニ關スル件

標記ニ關シ曩ニ通牒置候處右趣旨ハ此ノ際工場ノ狀況ニ依ル區別ナク一般的ニ許可スベシ

トスルモノニシテ該許可ハ法律ノ變更ナキ限り撤回シ得ザル恒久的性質ヲ有スヘキモノニハ無之該許可ニ際シテハ將來當局ニ於テ定ムルコトアルベキ方針ノ下ニ許可ヲ撤回シ又ハ條件ヲ附シ得ル餘地ヲ有スル様御措置相成度

發勞第九九號

昭和四年十二月五日

社會局長官

各地方長官殿

工場法施行規則第三條輸出絹織物ノ解釋ニ關スル件依令通牒

工場法施行規則第三條ノ輸出絹織物ニ付テハ經緯トモ純絹絲ヲ使用シ製織スルモノニ限ラレ(一部畧)居候處再今人造絹糸ヲ使用製織スルモノモ含ム儀ト御了知相成度

發勞第一一〇號

大正十五年十月廿一日

社會局勞働部長

應府縣長官殿

母性保護ニ關スル件

工場法施行規則第九條及鑛夫勞役扶助規則第十五條ノ所謂出產ハ妊娠四箇月以上ノ出產(生産、死産ヲ問ハズ)ト決定相成候條御了知相成度

發勞第一五號

昭和四年二月二十六日

社會局勞働部長

地方長官殿

哺育時間ト休憩時間トノ關係ニ關スル件

工場法施行規則第九條ノ二(鑛夫勞役扶助規則第十六條)ノ規定スル哺育時間ト工場法第七條(鑛夫勞役扶助規則第九條)ニ規定スル休憩時間トノ關係ニ付疑義有之處哺育時間中

ハ哺育スル女子ハ十分休憩ノ目的ヲ達シ得ルモノト認メラル、ヲ以テ休憩時間ノ配置ガ哺育上支障ナキ限り休憩時間ヲ哺育時間中ニ包含セシムルモ差支無之例ヘバ午前十五分午後十五分休憩時間ニ付哺育スル女子ニ對シテハ請求ニ依リ十五分ヲ延長スレバ足り特ニ休憩時間外ニ三十分支給ヲ要セザル儀ト御了知相成度

發勞第一四號

昭和四年二月二十六日

社 會 局 長 官

地方長官殿

工場法上ノ休日ノ意義ニ關スル件

工場法上ノ休日ノ意義ニ付從來大正四年十二月七日付商第一、三四八號及大正十一年十月三十日附工局第一、三五四號（改正工場法並解釋例規⁸⁴及⁸⁵）ニ依リ法第三條ノ反面トシテ當然與ヘラルベキ休養時間ヲ休日（繼續セル二十四時間）中ニ算入スルコトヲ認メ來リ候處本年七月一日ヨリ深夜業禁止セラレ休日八月二日ヲ以テ足ルコトトナル機會ニ於テ右ノ

變則的取扱ヲ廢止シ昭和四年七月一日以降ニ於テハ休日ニハ就業日中ノ時間ヲ算入セサル繼續二十四時間ヲ要スル儀ト決定致候例示スレバ深夜業廢止後ニ於テ交替各組ノ操業全部ヲ停止スル休日ヲ二回以上設ケル場合ハ問題ナキモ休日ニ於テ單ニ片番（午前組午後組ノ何レカ一方）ノ操業ヲ停止スルニ止マルトキハ前日ノ一番方ニシテ休日當日（片番休日）ニ番方ノ作業ヲ爲ス者ニ對シテハ工場法上ノ休日ヲ設ケタリト云フコトヲ得ズ休日當日全然作業ヲ停止スル者ノミ休日ヲ得タルコトトナル、故ニ月四回ノ片番休日アルトキハ二日ノ休日アルモ月二回又ハ三回ノ片番休日ノ場合ニ八月二回ノ休日ヲ與ヘタルモノトナラザル儀ト御了知相成度

發勞第二七號

昭和五年五月十六日

社 會 局 勞 働 部 長

廳府縣長官殿

製糸工場ノ外摺式摺輪ノ車軸ノ柵圍被覆等ニ關スル件

標記ニ關シ過般工場監督主任官事務打合會議ノ際質疑ノ次第有之候處左記ノ通局議決定候
候御了知相成度

記

- 一 製絲工場ノ外摺式摺輪ノ車軸ニシテ左記各號ニ該當スルモノハ柵圍圓套ヲ設クルヲ要
セス
- (一) 動力ヲ傳導スルニ調帶ニ依ルモノニアリテハ男子ナラバ一人女子ナラバ二人、三人協力
シテ摺輪ヲ握ルコトニ依リテ回轉ヲ停止シ得ル如キモノ
- (二) 動力ヲ傳導スルニ齒輪ヲ以テスルモノニ在リテハ有効ナル「グラッチ」遊車管ノ動力
遮斷裝置ヲ有スルモノ但シ其ノ使用方法ヲ職工ニ周知セシメアル場合ニ限ル

保收第一一八五一號

指揮 大正十五年十二月八日

宮崎縣警察部長

縣下各警察署長殿

臨時職工ノ扶助ニ關スル件

社會局勞働部長ヨリ別紙ノ通り通牒有之候ニ付テハ其ノ署管内工業主ヘ示達相成度及指揮
候也

發勞第一一九號

大正十五年十一月二十五日

社會局勞働部長

廳府縣長官殿

臨時職工ノ扶助ニ關スル件

健康保險法第十三條ニヨレバ臨時ニ使用セララル、者ニシテ勅令(健康保險法施行令第九條)
ヲ以テ指定スルモノハ之ヲ被保險者トナサ、ル規定ナルモ工場法ニ於テ工業主ノ扶助義務
ハ臨時職工ト否トテ問ハズ廣ク一切ノ職工ニ及ブ義ニ有之候處動モスレバ誤解ヲ爲シ臨時
ニ雇備スル職工又ハ試期間中ノ職工ニ對シテハ扶助ヲ爲ササルモノ往々之有ニ付右等ノ
職工ト雖モ總テ扶助ヲ要スルモノナルコトヲ明ニシ嚴重ニ監督相成様特ニ御留意相成度候

追テ工場ノ業務ニ従事スル者ニシテ其ノ操業カ性質上職工ノ業務タル以上ハ雇傭關係
 が直接工業主ト職工トノ間ニ存スルト或ハ職工供給請負者事業請負者等ノ介在スル場
 合トテ間ハズ一切其ノ工業主ノ使用スル職工トシテ取扱フモノトス

保發第七二六號

昭和三年十一月三十日

地方長官殿

社 會 局 保 險 部 長

業務上ノ傷病ニ付健康保険ノ給付ヲ爲シタル被險者ニ關スル件

工場ニ於ケル職工又ハ鑛山ニ於ケル鑛夫ノ業務上ノ傷病ニ付テハ先ツ健康保険ニ於テ給付
 ヲ爲シ法定日數ニ達シ仍未治癒ナル場合又ハ治癒スルモ身体ニ障害ヲ貽シタル場合ハ工業
 主又ハ鑛業權者ニ於テ工場法又ハ鑛業法ニ基キ扶助ヲ爲スベキ儀ニ有之又業務上ノ事由ニ
 因ル傷病ノ爲死亡シタル職工又ハ鑛夫ノ遺族ニ對シテモ工業主又ハ鑛業權者ニ於テ是等ノ
 法例ニ基キ扶助ヲ爲スヘキ儀ニ有之候處斯カルモノニ付テハ扶助ノ有無及當否御調査相成

候場合モ可有之(以下一部省畧)健康保険組合管掌保険ニ付テモ同様其ノ必要可有之ト被
 存候仍テ本件ノ資料ヲ健康保険組合ヨリ貴官ニ對シ通報スベキ様別紙寫ノ通各健康保険組
 合ニ對シ通牒致置候條御了知相成度

保發第七二六號

昭和三年十一月三十日

社 會 局 保 險 部 長

健康保険組合御中

業務上ノ傷病ニ付健康保険ノ給付ヲ爲シタル被保險者ニ關シ地方廳等ニ通報方件
 強制被保險者タル職工若ハ鑛夫又ハ強制被保險者タリシ職工若ハ鑛夫ニ對シ業務上ノ事由
 ニ因ル疾病又ハ負傷ニ付健康保険ニ於テ療養ノ給付ヲ爲シ若ハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費
 ヲ支給シ法定日數ニ達シタルモ傷病仍未治癒ナルモノ又ハ傷病治癒セルモ身体ニ障害ヲ貽
 シタルモノ及業務上ノ事由ニ因ル傷病ノ爲死亡シタルニ依リ埋葬料若ハ埋葬費ヲ支給シタ
 ルモノニ付テ爾今別記様式ニ依リ翌月十五日迄ニ工場法適用工場ニ使用セラル、者又ハ使

十三條ニ依リ訴願訴訟ヲ提起シ得ルモノナリヤ否ヤ
 答 施行令第十八條ノ審査及調停ハ法律關係ヲ確定スルノ效果ナキヲ以テ必要ニ依リ再審査ヲ爲スヲ妨ケス從テ又右ノ審査及調停ハ工場法第二十三條ノ所謂行政廳ノ處分ニアラザルヲ以テ訴願及行政訴訟ハ之ヲ提起スルコトヲ得ズ

勞發第七號

昭和四年一月十九日

地方長官殿

社會局 勞働部長

職工負傷疾病月報中職業病ニ關スル件

職業病調査上要用有之候ニ付昭和四年一月分以降職工負傷疾病月報中職業病ニ該當スルモノアリタルトキハ工場名及其ノ部分ノ寫ヲ作製シ當局ニ報告相成度

勞發第二一四號

昭和四年七月廿四日

社會局勞働部長代理 大野綠一郎

官崎縣知事殿

職工ノ職業病報告ニ關スル件

本年一月十九日附勞發第七號ヲ以テ標記ノ件通牒置候處職業性疾患ニ關シテハ別紙ノ通御了知相成度尤モ事態重大ナルモノハ(以下一部畧)工場法施行規則第二十五條ニ依ル職工死傷報告ニ依リ其ノ概況即報ヲ要スル儀ト御了知相成度

職業性疾患報告注意書

甲 毎月又ハ事故發生毎ニ即報スベキ疾患

一 鉛中毒

二 水銀中毒、雷汞ニ因ル皮膚疾患

三 砒石中毒、砒化水素中毒、砒素化合物ニ因ル皮膚疾患

四 黃磷中毒、磷化水素中毒

- 五 青酸中毒
- 六 クローム潰瘍、クロームニ因ル鼻中隔穿孔
- 七 ニツケル濕疹
- 八 マンガン中毒
- 九 錳熱（酸化鉛煙ノ中毒）
- 十 クロール中毒、鹽酸ニ因ル粘膜又ハ皮膚疾患
- 十一 鹽化硫黄中毒
- 十二 フオスゲン中毒
- 十三 弗化水素中毒又ハ皮膚疾患
- 十四 硝氣ニ因ル中毒又ハ粘膜ノ疾患、硝酸ニ因ル皮膚又ハ粘膜ノ疾患
- 十五 亞硫酸瓦斯中毒、硫酸ニ因ル粘膜又ハ皮膚疾患
- 十六 アンモニア中毒
- 十七 一酸化炭素中毒
- 十八 炭酸瓦斯中毒

- 十九 石灰窒素中毒又ハ眼疾患皮膚疾患
- 二十 硫化水素中毒又ハ眼疾患
- 二十一 二硫化炭素中毒
- 二十二 フォルムアルデヒドニ因ル皮膚又ハ粘膜ノ疾患
- 二十三 アクロレイン中毒
- 二十四 エーテル中毒
- 二十五 醋酸エイル中毒
- 二十六 醋酸アミル中毒
- 二十七 メチルアルコール中毒
- 二十八 四鹽化エタン中毒
- 二十九 臭化メチール中毒
- 三十 テレピン油中毒又ハ皮膚疾患
- 三十一 漆瘡
- 三十二 タール、ピッチ、瀝質物、鑛油又ハパラフィンノ使用取扱作業ニ於ケル皮膚炎又ハ

- 一 吐皮膚病
- 二 ベンゾール、アニリン、ニトロベンゾール其他ノ芳香薬化合物ニヨル中毒又ハ皮膚疾患
- 三 石油ベンゼン中毒又ハ皮膚疾患
- 四 肺病
- 五 炭疽病
- 六 白内障（硝子製造、鍛冶業鑄造業等長時間熱線ニ曝露スル作業）
- 七 電眼症（熔接、切斷作業、金屬ノ精煉作業、電工等強光線ニ曝露スル作業）
- 八 高温作業ニ於ケル熱中症
- 九 職業性癩癧
- 十 高聳響作業ニ於ケル難聴
- 十一 乙半ケ年ニ取纏メテ報告スベキ疾患
 - 一 人絹糸製造業ニ於ケル有害瓦斯ニヨル結膜炎、角膜炎又ハ角膜潰瘍
 - 二 製糸業、製紙業其他濕潤作業ニ於ケル職業性皮膚炎又ハ皮下蜂窩織炎
 - 三 紡績業ニ於ケル癩癧
 - 四 立作業ニ於ケル扁平足
 - 五 樽工ノ腎部ノ皮膚炎
 - 六 セメント石灰等ニヨル皮膚粘膜炎ノ疾患
 - 七 鑛酸取扱者ノ歯牙ノ酸蝕症

工第三八八一號

大正九年七月二十二日

農商務省工務局長

宮崎縣知事殿

職工貯蓄金管理ニ關スル認可申請ノ場合取扱方ノ件

工場法施行令第二十五條ノ規定ニ依リ工業主ヨリ職工貯蓄金管理ニ關スル認可申請有之候場合ハ之ガ取扱上其管理方法ノ確否ニ付審査セラルルハ勿論ノ義ニ候得共尙ホ將來左記事項ニ準據シ職工ヲシテ法令上認めラレタル自己ノ權利ヲ充分ニ意識セシメ法ノ精神ヲ徹底

セシムルニ留意相成度依命此段一通謀候也

追テ貴廳ニ於テ既ニ認可済ノモノニ付テモ本文ノ趣旨ニ據リ相當措置相成度申添候

記

- 一 工業主ヲシテ管理規程ヲ作製セシメ之ニ工場法旅行令第二十三條全施行規則第二十條ノ規定ノ趣旨ヲ明記セシムルコト
- 二 工業主カ工場法施行令第二十四條第二號ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ規程中ニ明記セシムルコト
- 三 管理規程ハ之ヲ貯蓄職工ニ配布セシメ且工場内適當ノ場所ニ揭示セシムルコト

發勞第一〇三號

大正十五年九月二十二日

社會局 勞働部長

應府縣長官殿

職工ノ貯蓄金管理ニ關スル件

工場法施行上職工ノ貯蓄金ニ關シ左記ノ通決定相成候條此段及通謀候也

記

- 一 強制貯蓄金ヲ認ムル場合ニ於テハ貯蓄金ノ率ハ一般職工ニ就テハ賃金ノ百分ノ五以下寄宿舎ニ在ル女工ニ就テハ賃金ノ一割以下トスルコト
- 二 任意貯蓄金ニ付テハ豫メ職工ノ申出タル一定ノ金額又ハ一定ノ割合ニ依ルコトトシ金額又ハ割合ニ制限ヲ設クルヲ要セサルモ此ノ場合ニハ職工ノ要求アルトキハ何時ニテモ返還セシムルコトトスルコト
- 三 貯蓄金ヲ工業主又ハ工場管理人ニ於テ保管スル場合ニハ其ノ利率ハ強制貯蓄金ニ在リテハ七分以上任意貯蓄金ニ在リテハ六分以上トスルコト
- 四 現狀ヲ急激ニ變更シ難キ事情アル場合ニハ大正十六年ヨリ右ニ依リ實行ノコト

發勞第六〇號

昭和五年十二月二十七日

社會局 勞働部長

地方長官殿

職工ノ貯蓄金管理ノ利率ニ關スル件

工場法施行令第二十四條及第二十五條ニヨリ職工ノ貯蓄金ヲ工業主ニ於テ管理スル場合ノ利率ニ付テハ大正十五年九月二十二日付發勞第一〇三號ヲ以テ強制貯金ハ七分以上任意貯金ハ六分以上トスベキ旨通牒置候處一般財界ニ於ケル金融狀況ニ鑑ミ特ニ必要アリト認めラル、場合ニハ右ヲ一分ツ、引下ケ強制貯金ハ六分任意貯金ハ五分トスルモ差支無之尤モ右引下認可ノ指令ニハ將來金融界ノ事情等ニヨリ引上方ヲ命スルコトアルベキ旨條件ヲ附シ置ク様致度尙資力確實ナラザル工業主ノ貯蓄金ニ就テハ確實ナル保證人ヲ立テシムル等此ノ際特ニ留意相成度

收勞第六四號

昭和七年三月二十四日

社會局 勞働部長

廳府縣長官殿

職工賃金及貯蓄金未拂ニ關スル件

主題ニ關シ左記ノ通質疑應答候條御了承相成度

記

問 職工ノ死亡解雇等ノ場合ハ權利者ノ請求アラバ職工ノ賃金又ハ貯蓄金ハ遲滞ナク支拂フヘシトノ趣旨ニテ之有權利者ノ請求ナキ場合ハ遲滞ナク支拂フテ必要トセサルモ相當ノ時期(例ヘバ權利者ノ所在ヲ調査シ手續ヲ履行セシムル等相當期間ノ猶豫ヲ見込ミテ)迄ニ支拂フベキ義務アルモノニテ苟モ權利者ノ請求ナキテ奇貨トシ遲滞ナク支拂ハサルハ勿論消滅時効ノ到來スル迄支拂義務ノ懈怠ヲ續行スルガ如キテ規定ノ趣旨ヲ曲解セルコト甚シキモノト認めラレ候モ聊疑義有之候條何分ノ御指示相仰度申添候權利者ヨリ請求ナキ場合ニ於ケル工業主ノ職工ニ對スル賃金貯蓄金等ノ支拂義務ニ關シ伺出有之候處工場法上職工ノ賃金及貯蓄金ニ付テハ特別ノ保護ヲ與ヘラレ其ノ支拂ニ付テ工業主ガ常ニ積極的措置ヲ採ルヘキ義務ヲ有スルコトハ工場法規ノ全般ヨリ推論シ得ル處ナルヲ以テ職工ノ解雇死亡等ノ場合ニ於テモ權利者ヲシテ賃金貯蓄金ノ請求ヲ爲サシムベキ措置(例之賃金ノ支拂又ハ貯蓄金ノ返還ノ方法ニ對スル告知注意等)

ヲ採ルベキコトハ工場法ガ工業主ノ義務トシテ要求スル所ト解スヘク從ツテ貴問ノ件ニ付テハ職工ノ死亡解雇等ノ場合ニハ其ノ所在ヲ知ルコト能ハザル場合ノ外工業主ハ權利者ニ對シ賃金又ハ貯蓄金ノ金額請求手續等ニ付通知スル等適當ノ措置ヲ講スヘキ義ト御了承相成度

追而權利者ガ工場所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在ル等ノ事情ニ因リ送金ヲ必要トスル場合ニ於テハ民法ノ委任事務管理等ノ規定ノ趣旨ニ準シ之ニ要スル費用ハ賃金又ハ貯蓄金中ヨリ控除スルモ差支無之爲念

發勞第七一號ノ内

大正十五年十二月十三日

社 會 局 長 官

廳府縣長官殿

就業規則ニ關スル件

工場法施行令第二十七條ノ四第三項ニ依リ地方長官ハ就業規則ノ變更ヲ命シ得ルコトト相

成居候處大体左記標準ニ依リ處理相成度地方又ハ業務ノ特別ナル事情ニ依リ難キ場合ハ適宜御處置相成度差支無之

記

一 貯蓄金ニ關スル事項

工場預金ニ對シテハ任意貯金ニハ年六分強制貯金ニハ年七分以上ノ利子ヲ附スルコト
強制貯金ヲ認ムル場合ニ於テハ貯蓄金ノ率ハ一般職工ニ就テハ賃金ノ百分ノ五以下寄宿舎ニ在ル女工ニ就テハ賃金ノ百分ノ十以内トスルコト（九月二十二日附通牒）

二 制裁ニ關スル事項

- イ 譴責ニ付テハ別ニ制限セサルコト
- ロ 減給又ハ過怠金ハ一回ノ過失ニ對シ一日ニ付賃金ノ半額、總額ニ於テ賃金三日分ヲ超エザルコト但シ己ムテ得サル事情アル場合ニハ五日分迄認ムルコト
- ハ 出勤停止ハ職工ノ出勤カ工場ノ秩序ヲ亂シ又ハ事業ノ安全ヲ危クスル場合又ハ本人ノ反省ヲ促スニ必要ナル場合等己ムテ得ザル場合ニ於テ之ヲ認ムルモ七日ヲ限度トスルコト

二 懲戒解雇

- 即時（無手當）解雇ハ不當ニ廣ク認メサルコト但シ左ノ如キ場合ニハ之ヲ認ムルコト
- 1 氏名又ハ經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルトキ
 - 2 工場ノ物品ヲ窃カニ持出シ又ハ持出サムトシタルトキ
 - 3 營業上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ曝露シタルトキ
 - 4 暴行ヲ敢テシ又ハ不法ニ強迫ヲ爲シタルトキ
 - 5 故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破壊シ工場ニ損害ヲ加ヘタルトキ
 - 6 故意ニ工場ノ秩序ヲ亂シ又ハ工業主ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキ
 - 7 故意ニ危害豫防ニ關スル規則又ハ指揮命令ニ違反シタルトキ
 - 8 數回制裁ヲ加フルモ尙改悛ノ見込ナキトキ
 - 9 正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤十四日以上ニ及ビタルトキ
 - 10 其ノ他職工ノ責ニ歸スベキ事由ニ依リ己ムテ得サルトキ
- 其ノ他ノ制裁ニ付テハ實際必要ノ限度ニ止メ濫リニ過酷ナル制裁ヲ規定セシメサルコト

三、次ギノ如キ主旨ノ規定ハ削除又ハ修正セシムベキコト

- 1 勞働組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脱退スルコトヲ雇入ノ條件トナスモノハ之ヲ削除セシムルコト
- 2 早出、残業、徹夜又ハ休日ニ臨時出勤ヲ命セラレタル者之ヲ拒ミタルトキ制裁ヲ加フルモノハ自己及家族ノ病氣其他己ムテ爲サル事由アルトキハ此ノ限りニ在ラスト改メシムルコト
- 3 工場内外ニ於ケル職工ノ集會又ハ揭示等ヲ禁止シ之ニ制裁ヲ加フルモノハ許可ナキ工場内ノ揭示又ハ集會ニ限り工場外ノ場合ヲ除外セシムルコト
- 4 事由ノ如何ヲ問ハス同盟又ハ結束シテ諸願又ハ抗爭ヲナシ或ハ事業上支障ヲ來スカ如キ所爲ヲ嚴禁シ違反スルモノハ懲戒解雇ストスルモノニ付テハ穩健ナル方法ニヨリ請願スル場合ヲ除外セシムルコト

◎工場法ニ所謂工場ノ意義

(大正五、一〇、二六)
(商局第一、一八二號)

工場法規ニ所謂工場ノ意義ニ關シテハ適確ナル定義ヲ下スコトハ到底困難ナリ箇々ノ場合ニ於テ各種ノ資料ト四圍ノ事情トヲ參酌シテ決定スルノ外ナキモ大體工場トハ職工ヲ使用シテ製造(原料ト名稱ヲ異ニスル物品ヲ製作スルコト)若ハ加工(原料ト名稱ヲ異ニセザルモ之ヲ變造、修覆、裝飾、精製スルコト)又ハ仕上げ、仕別ケ、包裝、荷造(既ニ製造加工ヲ終リタル物品ニシテ單獨ニ又ハ集團的ニ一定ノ形態又ハ外裝ヲ有セシムルコト)等ノ作業ヲ或期間ニ涉リ繼續シテ爲スヲ目的トスル一定ノ場所ヲ謂フ(發電、變電及蓄電所ハ直ニ此ノ説明ニ該當セザルモ工場トス)

工場ナルヤ否ヤ疑ハシキモノニ付工場ト工場ニ非ザルモノヲ區別シタル事例左ノ如シ
甲 工場ト認ムベキモノ

一 船渠及浮船渠

二 襪襪、紙、屑糸、屑蘭ノ選別所

乙 工場ト認ムベカラザルモノ

一 建築場但シ大建築ヲ爲ス場合ニ於テ長期ニ涉リ一定ノ設備ノ下ニ材料其ノ他ニ付製造加工ヲ爲ストキハ其ノ場所ニ限り又建築場全體ヲ通ジテ工場ト認ムル場合アルベシ

二 海岸其ノ他ノ場所ニ於ケル露天ノ和船建造場但書前項ニ準ス

三 土石ノ採掘場

四 獨立セル瓦斯又ハ石油ノ貯藏所

五 養蠶又ハ蠶種製造所

六 屠獸場

七 鯨船

八 浚渫船

九 商店其ノ他ニ附屬セル荷造場但工場ニ附屬セルモノハ工場ノ一部トス

十 監獄ノ勞役場、養育院又精神病院其ノ他特殊病院ニ於ケル作業場

十一 學校及官立試驗場ニ於ケル作業場

十二 河原又ハ草野等ニ於ケル晒場但シ工場ニ接續シ又ハ附屬セルモノハ工場ノ一部ト認

- 三 組合ノミカ使用スル生産組合ノ作業場
- 十四 鹽田(大正六、二、二八)
(商第二五六二號)

◎工場法規ニ所謂職工ノ意義(大正五、一〇、一六)
(商局第一一八二號)

工場法規ニ所謂職工ノ意義ニ關シテハ適確ナル定義ヲ下スコト到底困難ナリ箇々ノ場合ニ於テ各種ノ資料ト四圍ノ事情ヲ參酌シテ決定スルノ外ナキモ大體ノ標準ヲ示ストキハ職工トハ主トシテ作業場内ニ在リテ工場ノ目的トスル作業ノ本體タル業務ニ付勞役ニ從事スル者及直接ニ其ノ業務ヲ助成スル爲勞務ニ從事スル者ヲ謂フ即チ工場ノ主タル作業ハ勿論之ニ關係アル作業例ヘバ場内運搬、工場設備ノ手入、修覆等ニ從事スル者ヲ包含ス職工ナリヤ否ヤ疑ハシキ者ニ付職工ト職工ニ非ザル者トヲ區別シタル事例左ノ如シ

甲 職工ト認ムベキ者

- 一 勞役ヲ直接ニ指揮監督スル工長、伍長、職工長ノ類
- 二 工場建物ノ修繕ノ爲ニ常時使用シ居ル大工又ハ左官
- 三 臨時職工、日傭職工

乙 職工ト認ムベカラザル者

- 一 専ラ作業場外ニ在リテ運搬ニ從事スル人夫、便所、寄宿舍ノ掃除夫及賚方
- 二 門衛、給仕
- 三 生糸工場ニ於ケル教婦
- 四 職工ノ名稱ヲ附シ職工ノ待遇ヲ與フルモ常時工場事務室ニアリテ單ニ事務ニ從事スルモノハ工場法上職工ニ非ズ(昭和二、一、二二)
(勞發第一三號)

附

錄

工業場建設並原動機設置願（記載例式通提出ヲ要ス）

一 本籍地 官崎縣西諸縣郡小林町大字細野一三五番地
 住所 官崎市淨土江町三二番地
 願人 吉 田 信 吉

明治三十五年一月十日生

二 建設ノ場所

官崎市淨土江町三二番地

三 工業ノ名稱

吉 田 精 米 所

四 工業ノ種類

精 米 業

五 常時使用スヘキ従業員ノ男女別數

職工

男 二名

女 一名

職工以外ノ従業員

男 一名

女 一名

六 原料及製品ノ名稱並ニ一日生産量及一日ノ作業時間

立米 自米 一日五石 一日十時間 自午前七時 至午後五時

七 工業場敷地及建物ノ總面積及建物ノ構造

工業場敷地何平方米突建物何平方突トタン葺平屋

八 各建物ノ位置用途面積及各建物間ノ巨離並ニ附屬設備

畧圖ニテ可ナリ但シ寸法ヲ洩ナク記入ノ事

九 原動機其他主要機械及通路ノ配置並ニ其相互間ノ巨離通路ノ幅員階段及非常避難出口

ヲ明示シタル平面圖畧圖ニテ寸法ノ正確ナル記入ヲ要ス

一〇 機械又ハ動力傳導設備ニシテ通路ヲ横斷スルモノニテハ床面ヨリ高サ及之ニ對スル

危害豫防裝置ヲ明示シタル圖面

畧圖ニテ寸法ヲ洩レナク記入スル事

一一 作業ノ性質危険又ハ有害ノ虞アル工業場及騒響震動ヲ發シ若シクハ有害物ヲ排出ス

ル工業場ニ在リテハ其豫防設備又ハ除害設備ノ明細書又ハ圖面

明細書ニテ細シク説明スル事設備ニテハ圖面ニテ説明スル方ヨシ

一二 建設工場又ハ設置場所地主承諾書添付(自己所有地ナレバ不要)

一三 落成豫定期日

何 年 月 日

原動機ニ關スル事項

(以下電動機ノ記載例 原動機ヲ設置スルモノハコノ項目ヲ記載ノ事)

一 原動機ノ種類及箇數

三相誘導電動機

二 原動機室ノ面積及構造

何平方米突 トタン葺平屋

四 壓力計ノ形式箇數及最大目盛

無シ(汽罐等ノ如ク蒸汽ヲ用フルモノノミニ用フ)

五 原動機ノ位置及原動機室トノ直近ノ建物トノ距離ヲ明示シタル圖面

五 罫圖ニテ寸法ハ洩レナク記入スル事
六 敷地ノ外避ヨリ周圍五〇メートル以内ニ於ケル建築物ノ位置及名稱ヲ明示シタル見取
罫圖

罫圖ニテ寸法ヲ洩レナク記入スル事

汽罐及蒸罐ニ關スル事項

(汽罐及蒸罐ヲ設置スルモ
ノハコノ項ヲ記載ノ事)

一 汽罐ノ種類

コルニツシユ汽罐

二 汽罐ノ寸法

徑一米突三十種 長四米突

三 罐板ノ種類及原サ

軟鋼板 八種

四 安全弁ノ種類 筒數及其徑

複式安全弁徑三種

五 常用壓力

每平方糎ニ付五疋

六 罐板ノ接合方法

累接鉸鍊

七 燃料ノ種類

石 炭

八 煙突ノ構造種別高サ頭部ノ徑及支線ノ種類並ニ其ノ施設方法及避雷裝置ノ地中板又ハ

地中線ノ埋設方法

鐵板圓形高サ二十二米突頭部ノ徑四十種三方張二段支線ヲ設ク支線ハ八番線三本

燃避雷裝置ノ地中板ハ銅板五〇平方糎ノモノヲ地下二米突ニ木炭ヲ敷キ其上ニ埋

設ス

右ニ依リ工場建設並原動機設置致度候ニ付御許可相成度此段相願候也

宮崎縣知事殿

右願主

吉

田

信

吉

註釋

(本例ハ吉田信吉名義ニテ精米所建設ニ關スル願書ノ例トシテ記載シタルモ原動機ハ電動機ヲ用ヒタリ
汽罐ノ項目ハ本件ニハ不用ナルモ其ノ他ノ工場建設ノ場合機關ヲ設クル工場ノ分ヲ例トシテ記シタリ)

工場並ニ原動機設置竣工届(壹通)

指令保第

號昭和 年 月

日御許可相成候

工場建設並原動機設置ハ昭和 年

月 日被工致候間使用認可相成度此段及御届候也

昭和 年 月 日

住 所

工業主



宮崎縣知事殿

適 用 工 場 届 (貳通ヲ要ス)

一 工場ノ名稱及所在地

何々製材工場

宮崎縣東臼杵郡南郷村大字何所何番地

二 工場主ノ住所氏名

宮崎縣東臼杵郡南郷村大字何所何番地

何

某

三 資本金

金貳千圓也

四 事業ノ種類

建築材料及製板業

五 原動機ノ種類及個數

ダービン式水車 壹個

六 常時使用ノ男女別及寄宿、通勤別職工數
男 三人 女 ナシ 自宅通勤 三人

七 一日ノ始業及終業ノ時刻
午前六時ヨリ午後六時迄

八 休日及休憩時間ノ實施方法

休日毎月一日十五日二回

休憩毎日午前九時ヨリ三十分間正午ヨリ一時間午後四時ヨリ卅分間以上貳時間

九 賃金日額及其算定方法並支給期間及期日

男一日八拾錢 每月末支給

一〇 就業規則其ノ他ノ制裁ニ關スル規定

一ヶ月内ニ五日間以上休業シタル者ハ日額計算ノ時差引支拂フ並故ナク工場内ニ於テ亂暴シタルモノハ解雇スルコトアルベシ

一一 扶助方法共済組合其ノ他ノ福利施設ニ關スル規定

別紙之通り

右工場法施行細則第二條ニ據リ及御居候也

年 月 日

工業主 氏

名 印

官崎縣知事 殿

職工扶助規則 (準則)

第一條 職工業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ若ハ死亡シタル時ハ本則ノ定ムル所ニヨリ之ガ扶助ヲ爲スモノトス

第二條 本則ニ於テ職工ト稱スルハ左ニ記載スル者ヲ謂フ

一 工 三 試ノ雇傭中ニ在ル職工

二 工 四 臨時工

第三條 扶助ノ種類左ノ如シ

一 施療

二 施養料

三 休業扶助料

四 障害扶助料

五 遺族扶助料

六 葬祭料

七 打切扶助料

第四條 職工業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ當工場ニ附屬シ若ハ當工場ノ指定シタル醫師病院等ニ於テ當工場ノ費用ヲ以テ施養ヲ爲スモノトス

負傷又ハ疾病ノ程度若ハ其ノ他ノ事情ニ依リ前項ノ規定ニ據リ難キ場合ニ當工場ノ承認ヲ經テ他ノ醫療ヲ受ケタルトキハ當工場ニ於テ之ニ要シタル實費額ヲ支給スルモノトス

第五條 前條ノ療養ノ爲メ休業シ賃金ヲ受ケサルトキハ其ノ療養中左ノ區分ニ從ヒ休業扶助料ヲ支給ス

- 一 休業百八十日迄一日ニ付賃金百分ノ六十
- 二 休業百八十一日以上一日ニ付賃金百分ノ四十

第六條 障害扶助料ハ負傷又ハ疾病治癒シタルトキニ於テ身体ニ障害ヲ存スルトキ左ノ區別ニ依リ支給スルモノトス

- 一 終身自由ヲ辯スルコト能ハサルモノ 賃金五百四十日分
- 二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金參百六十日分
- 三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金壹百八十日分

四 健康奮ニ復スルコト能ハサルモノ

賃金壹百八十日分

五 女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ

賃金壹百八十日分

六 身体ヲ障害シ舊ニ服スルコト能ハズト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ

賃金四拾日分

第七條 職工死亡シタル場合ニ於テハ其ノ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ對シ 賃金參百六拾日分 貴族扶助料ヲ支給ス

第八條 前條ノ場合ニ其ノ葬祭ヲ行フ者ニ對シテハ賃金參拾日分（賃金參拾圓ニ滿タサルトキハ參拾圓）ノ葬祭料ヲ支給ス

第九條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トス工場法施行令第十二條但書ノ規ニ依リ遺族扶助料受領者ノ指定ナキ場合ニ於テハ其ノ受領者ノ順位ハ左ノ通りトス

- 一 職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者
- 二 職工家督相續人又ハ戸主

三 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工ノ死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者

第十條 本則第四條第五條ニ該當スル職工健康保險法ノ被保險者ニシテ其ノ負傷又ハ疾病ノ治療ニ付療養ノ給付又ハ療養費及傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキモノナルトキハ其ノ期間内本則ニ依ル施療又ハ療養料及休業扶助料ノ支給ヲ爲サ、ルモノトス

本則第八條ニ該當スル者健康保險法ノ被保險者ニシテ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキモノナルトキハ葬祭料ノ支給ヲ爲サ、ルモノトス

第十一條 本則第四條ノ療養又ハ健康保險法ノ保險給付ニ係ル療養開始後滿三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セサルトキハ賃金五百四十日分ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本則ニ依ル扶助ヲ爲ササルモノトス

第十二條 障害扶助料打切扶助料、遺族扶助料及葬祭料ハ左ノ區別ニ依リ其ノ支給額ニ割

増ヲ爲スモノトス

- 一 一年以上勤続者 支給額ノ一割
- 二 二年以上全 全 二割
- 三 五年以上全 全 三割

四 七年以上全 全 四割

五 十年以上全 全 六割

六 十五年以上全 全 八割

七 二十年以上全 全 十割

前項各號ノ勤続年數ハ本則施行前ノ雇入ニ係ル者ニ付テハ其ノ雇入ノ日ニ遡リテ之ヲ起算ス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ本則ヲ適用セス

一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十四條 左ノ場合ニハ其ノ事由發生後十五日以内ニ左記書類ヲ提出スベシ但工業主ニ於テ必要ナシト認めタルトキハ省畧セシムルコトケルベシ

一 障害扶助料ヲ請求スルトキハ醫師ノ診断書、療養料ヲ請求スルトキハ療養ヲ受ケタル證據書類

二 遺族扶助料及葬祭料ヲ請求スルトキハ死亡診断書又ハ檢案書遺族扶助料葬祭料ヲ受クル權利ヲ有スル者タルコトヲ證スル書類葬儀ヲ行ヒタルコトヲ證スル書類
診断書又ハ檢案書ノ費用ハ當工場ノ負擔トス

第十五條 療養料及休業扶助料ハ當工場ノ賃金支拂ヒ日ニ之ヲ支給ス

障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滯ナク打切扶助料ハ扶助廢止ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ支給スルモノトス

第十六條 本則第四條若ハ第五條ノ扶助ヲ受クル者又ハ第六條第一號第二號ニ該當スル者解雇セラレ十五日以内ニ歸郷スル場合ニ於テハ歸着地迄ノ船車馬賃辨當料宿泊料等ノ實費旅費ヲ支給ス第十一條ノ規程ニ依リ打切扶助料ノ支給ヲ受ケタル者扶助廢止ノ日ヨリ十五日以内ニ歸郷スル時亦同ジ

第十七條 前條ノ場合ニ於テ本人單獨歸郷シ能ハザルトキハ當工場ニ於テ附添人ヲ附シ又ハ附添人ニ要スル實費ヲ負擔スルモノトス

第十八條 業務上ニ基カザル負傷又ハ疾病ノ場合ニ於テ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケザルモノナルトキハ最初ノ三十日間ニ限り本則第四條ノ規定ニ依リ之レヲ扶助シ療養三十一日以上ニ及ブトキハ療養實費ノ半額ヲ當工場ニ於テ負擔スルモノトス
死亡者ニ對シテハ其ノ遺族ニ三十圓以上ノ吊慰料ヲ支給ス
前項吊慰料ニ付テハ本則第十二條ノ規定ヲ適用ス

第十九條 職工以外ノ事務員又ハ職員若ハ常雇ノ勞働者ノ扶助ニ關シ別段ノ規定ナキ場合ニ於テハ本則ニ依リ之ヲ扶助ス

第二十條 工場ニ於ケル公休日ハ休業扶助料支給ニ付テハ之ヲ其ノ休業日數中ニ算入シテ扶助料ヲ支給スルモノトス

第二十一條 扶助ニ關シ本則ニ規定ナキ事項ニ付テハ工場法令ノ定ムル所ニ據ルモノトス
本則ハ昭和 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

何々工場

工業主

氏

名印

工場分類 (改正)

染織工場

製絲業

生絲、玉絲、天蠶絲、柞蠶絲、紬絲等

紡績業

絹絲紡績
綿絲紡績
麻絲紡績 (ラミー、黄麻等)

撚糸業

絹撚糸
綿撚糸
麻撚糸
毛撚糸

製綿業

操綿、打綿等

織物業

- 一 絹織物
- 二 綿織物
- 三 絹綿交織物
- 四 麻織物
- 五 綿麻交織物
- 六 毛織物
- 七 綿毛交織物
- 八 緞通及地氈類
- 九 織物雜類

染色整理
其他ノ加工業

- 一 糸布ノ染色
- 二 糸布ノ漂白、精練、整理、起毛、洗濯等
- 一 莫大小
- 二 麻真田

組物編物業

- 一 糸組物、紐、洋燈心、蠟燭心、弦、房類、レース等
- 二 麻真田
- 三 糸組物、紐、洋燈心、蠟燭心、弦、房類、レース等

機械及器具工場

機械製造業

- 一 原動機及附屬機械類、電氣機械類、唧筒其他一般ノ機械類
- 二 金屬工用、木工用、染織工用、其他各種製造用又ハ加工用機械類
- 三 農業用、採礦用及精鍊用、其他各種機械類

船舶車軸製造業

船舶

- 一 船舶
- 二 機關車、航空機、電車、自動車、其他鐵道用客車貨車類
- 三 其他ノ車軸類（馬車、人力車、自轉車、荷車、其他）

- 一 理化學器、醫療器、測量器、製圖器其他學術器、時計、寒暖計、晴雨計、鉞盤、壓力計、水量計、其ノ他ノ計量器類及測定器類

- 二 金庫、度量衡器

- 三 樂器、寫真器類、眼鏡、顯微鏡、雙眼鏡其他ノ鏡類

- 四 電池、電鈴、洋燈、電燈球、其他ノ電燈用器、瓦斯又ハ水道用器、消火器類

器具製造業

金屬品製造業

- 五 工匠具（鏟、鋸、斧、鉋、槌、其他）農具、土工具（鋤、鍬、スコップ、シヨベル、其他）及物類（刀、劍、剪刀、剃刀、庖丁、其他）
- 六 銃砲、彈丸、其他ノ兵器類
- 一 鐵、鋼、銅、真鍮、鉛、錫、其他金屬ノ條竿、線、板、筒、管、其他加工セザル材料品

- 二 線索、金網、ボルト、ナット、リベット、釘類、針、發條、鏈鎖類

- 三 鑄鐵管、其他機械用鑄鐵又ハ鑄鋼製品

- 四 鍋、釜、鐵瓶、焜爐、其他鑄物類

- 五 洋傘骨、罐類、バケツ、金盞、洋燈口金、甲馳等

- 六 金銀器、銅器、青銅器

- 七 真鍮製品、鍍金製品、アンチモニー製品、アルミニウム製品

- 八 活字

- 九 戶金具、建築用又ハ家具金物類

- 十 其他ノ金屬製品

化學工場

窯業

- 一 陶磅器及七寶
- 二 硝子製品、磁瑯
- 三 セメント、石灰、骸炭
- 四 煉瓦、瓦、土管、坩堝、レトルト等

製紙業

- 一 洋紙、葉紙、板紙等
- 二 和紙
- 三 パルプ、其他製紙原料

漆器業

製革及毛皮精製業

發火物製造業

- 一 燐寸
- 二 火藥、ダイナマイト、其他ノ爆藥
- 三 雷管、導火線、煙火其ノ他ノ火工品

製油及製蠟業

- 一 礦物油（揮發油、燈油、機械油等）
- 二 芳香油（樟腦及樟腦油、薄荷及薄荷油、黑文字油、テレピン油等）
- 三 脂肪油（菜種油、荳油、胡麻油、亞麻仁油、大豆油、落花生油、棉實油、鯨油、鰵油、木蠟等）
- 四 蠟（鯨蠟、蜜蠟、パラフィン蠟等）

製藥業

- 一 醫藥、賣藥
- 二 工業藥

護謨製造業

護謨製品、ボエナイト製品

化粧品製造業

香水、香油、化粧水、白粉、紅、齒磨粉、髮附油等

石鹼及蠟燭製造業

藍、澁液、漆液、樹脂、ワニシユ、ペンキ、鉛丹、亞鉛華、膠、ゼラチン類

染料、塗料、顏料

糊料類ノ製造業
人造肥料製造業
セルロイド製造及加工業

人造絹糸業
雜業

アスファルト、薰香類、電炭「カルシウム、カーバイト」其他

飲食物工場

釀造業

- 一 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、銘酒
- 二 麥酒
- 三 葡萄酒、酒精及酒精含有飲料
- 四 酢、醬油、味噌

製糖業

製茶業

製穀製粉業

ラムネ、氷、礦泉業

菓子製造業

果實其他酒類以外ノ飲料
パン、菓子、飴、餡、其他ノ菓子材料、砂糖漬、ジャム、ゼリー、其他ノ糖果類

罐詰、壘詰業

畜產品製造業

水產品製造業

雜業

罐工場

牛酪、乾酪、鹽肉、燻肉、其他
魚介類ノ鹽藏、乾製、燻製又ハ醃藏品、鹽、昆布、海苔、寒天等
湯葉、豆腐、蒟蒻、素麵、各種漬物、香辛料品、調味料品等

印刷製本業

紙製品業

- 一 壁紙、織物紋紙、形紙、桐油、合羽、澁紙、其他ノ防水紙、擬革紙、紙函
- 二 紙鳶、紙製文具、其他
- 三 屏風、扇子、團扇、提灯、和傘等

製材業

木工業

皮革製品業

羽毛製品業

蘭苳麥稈及

經木真田業

- 一 疊表、莫莖、花苳
- 二 經木及麥稈真田

ベニヤ、樽、箱、木管及杼、マツチ軸、建具及家具類
靴、背囊、馬具、調帶、鞆類
筆、刷毛、刷子、楊枝等

玉石牙骨介甲
及角製品業

木
工
業

電
氣
業
瓦
新
業

特別

一 二 三 四 五 六 七 八 工

石材、石細工、寶玉細工、介甲牙骨及角製品等

醫療材料

製網、製網

被服、其他ノ裁縫品

帽子

綜統、篋、パツキンク、革製以外ノ調帶、絶緣電線、其他機械用品類

防水布、油布、ゴム布、擬革布等

鼻緒、雪駄、笠、藁製品、爪革、小間物、洋傘、釘、袋物、金屬箔粉、玉簾、

煙管、パイプ、造花、玩具、遊戲具類、石粉、墨、筆、鉛筆、其他文

房具類、摺硝子、粉炭、炭團、懷爐灰、其他

籠、簾、檜織、傘骨、柳行李、下駄表、其他竹籐柳蔓莖等ノ製品

工

金屬精鍊業

昭和七年十二月五日印刷
昭和七年十二月十日發行

宮崎縣保安課

宮崎市宮田町二丁目

印刷者 柴原重吉

宮崎市宮田町二丁目

印刷所 柴原印刷所

